授業科目名： 英語学概論１	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 籔内　智 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学

授業のテーマ及び到達目標

この授業では、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることを目標とする。現代英語を学ぶ・教える上で、英語のたどってきた歴史を知ることは重要である。現代英語が成立した経緯を学び、国際共通語としての英語の実態を概観する。

到達目標

１．国際共通語としての現代英語の実態について理解し英語の未来について考えることができる。

２．現代英語の音声、語構造、統語構造について理解する。

３．学んだ英語学の知識を活かし、教育現場で指導ができるような教え方の素地を養うことができる。

授業の概要

英語を言語学の立場から観察し、人間が持つ言語能力について理解を深める。また理論言語学が明らかにしてきた言語データを考察し、分析や仮説の科学的妥当性を検証する手法についても学んでいく。この授業では、音声学・音韻論（英語の音声や発音の特徴・仕組みを理解）、形態論（形態素の内部構造・複合語や派生語などの造語法）、統語論（文法論）を扱い、英語の背後に潜んでいるさまざまな規則性を見つけだし、英語の仕組みを明らかにする。

授業計画

第１回：英語学研究と英語教育

第２回：身近にある英語

第３回：世界語としての英語

第４回：英語の変種

第５回：音声学・音韻論（１）分節的特徴（母音や子音を中心に）

第６回：音声学・音韻論（２）超分節的特徴（ストレスやリズムを中心に）

第７回：音声学・音韻論（３）超分節的特徴（イントネーションを中心に）

第８回：形態論（１）歴史から見る借用語

第９回：形態論（２）カテゴリー化

第１０回：形態論（３）婉曲語法と政治的正しさ

第１１回：統語論（１）日本語と英語比較

第１２回：統語論（２）文法関係（主語をめぐって） 第１３回：統語論（３）品詞（動詞と名詞をめぐって） 第１４回：統語論（４）構文と事態把握
テキスト 　平賀正子（2016）『ベーシック新しい英語学概論』（ひつじ書房）
参考書・参考資料等 　高橋勝忠（2017）『英語学を学ぼう―英語学の知見を英語学習に活かす』（開拓社） 　川原功司（2023）『英文法の教え方―英語教育と理論言語学の橋渡し』（開拓社） 　伊藤たかね（2023）『ことばを科学する―理論と実験で考える、新しい言語学入門』（朝倉書店）
学生に対する評価 　授業参加度20％、レポート課題30％、授業内発表30％、小テスト20％

授業科目名： 英語学概論２	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 籔内　智
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学

授業のテーマ及び到達目標

この授業では、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることを目標とする。現代英語を学ぶ・教える上で、英語のたどってきた歴史と英語という言語の構造を知ることは重要である。現代英語が成立した経緯を学び、国際共通語としての英語の実態を概観する。

到達目標

１．現代英語の意味（意味論的意味および語用論的意味）について理解する。

２．英語の歴史について理解する。

３．学んだ英語学の知識を活かし、教育現場で指導ができるような教え方の素地を養うことができる。

授業の概要

英語学の知見にふれて人間の言語の特質について理解を深める。英語の具体的な素材を用い、観察と分析を通して言語現象を説明する作業を通して、英語学の営みを学ぶ。この授業では、「ことばの意味」に焦点を当てる。具体的には、まず、意味論的意味（言語表現を解釈することによって得られる意味）と語用論意味（言語表現にコンテクストを加えたものを対象とした解釈によって得られる意味）について知る。そして、語彙の中の意味関係、文法と意味、意味の変化、意味の習得、意味の普遍性と相対性などについて考察する。最後に、英語史（英語の歴史的変遷、とくに発音や語彙や文法の歴史的変化）についても学ぶ。

授業計画

第１回：意味の研究と英語教育

第２回：日常生活の中の「意味論」

第３回：ことばの意味と辞書

第４回：語彙の中の意味関係

第５回：文法と意味

第６回：意味とコンテクスト（１）語用論とは何か

第７回：意味とコンテクスト（２）高い文脈と低い文脈

第８回：意味の変化

第９回：意味の習得

第１０回：英語の歴史（1）古英語 第１１回：英語の歴史（2）中英語 第１２回：英語の歴史（3）近代英語 第１３回：英語の歴史（4）現代英語 第１４回：英語の歴史（5）世界の英語
テキスト 平賀正子『ベーシック新しい英語学概論』（ひつじ書房） 池上嘉彦（編）『テイクオフ英語学シリーズ３―英語の意味』（大修館書店）
参考書・参考資料等 高橋勝忠（2017）『英語学を学ぼう―英語学の知見を英語学習に活かす』（開拓社） 川原功司（2023）『英文法の教え方―英語教育と理論言語学の橋渡し』（開拓社） 伊藤たかね（2023）『ことばを科学する―理論と実験で考える、新しい言語学入門』（朝倉書店）
学生に対する評価 授業参加度20%、レポート課題30%、授業内発表30%、小テスト20%

授業科目名： 言語学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 籔内　智 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学

授業のテーマ及び到達目標

言語学は、人間のあらゆる言語を対象とし、その姿や働きを科学的に分析・研究する広範な学問である。この授業では、初めて言語学を学ぶ学生を対象に、言語学とは何をどのように研究するのか、世界にはどのくらいの数のどのようなタイプの言語があるのか、といったことを手始めとして、様々な言語の具体的な事例を通じて、言語というものを音韻・形態・統語・意味などの諸側面から幅広く眺め、そのメカニズムの面白さを紹介し、人間の言語の世界に興味を持ってもらうための一助にすることを目的とする。

到達目標

１．言語学とはどのような学問か理解することができる。
２．ことばとは何かという問いに自分のことばで説明することができる。
３．言語学の諸領域を理解することができる。
４．身近な言語現象に関心を持ち、考えることができる。
５．ことばの面白さや豊かさ、また、怖さを理解することができる。

授業の概要

ことばというものは、私たちにとってあまりにも身近すぎて、意識的に考えたりしたことがない人が多いと思われる。言語学は、人間のことばを研究する学問、ことばの本質を探究する学問であるが、私たちは、母語にしろ外国語にしろ、そのことばについて何を知っているだろうか。この授業では「ことばとは何か」「ことばはどのように働くか」という根源的な問いに対して、受講者自らが答えを見つけ出すことを期待する。そのために、「すべての言語に共通する特徴」「人間のことばと動物のコミュニケーションの相違」「ことばはなぜ変化するのか」「意味とは何か」「ことばの普遍性と相対性」などのより具体的な問題を切り口にしながら、考えていく。

授業計画

第１回：　言語学への招待—言語学とはどのような学問か
第２回：　言語とは何か（１）—言語の特性
第３回：　言語とは何か（２）—人間のことばと動物のコミュニケーション
第４回：　音声学と音韻論（音声への２つのアプローチ）（１）
　　（「あいうえお」の秘密—分節的特徴を中心に）

第５回：　音声学と音韻論（音声への２つのアプローチ）（２）
（「きれいじゃない」の意味—超分節的特徴を中心に）
第６回：　形態論—「イカ焼き」と「焼きイカ」の違いは？
第７回：　文法論—「着る」は「着て」なのに、どうして「切る」は「切って」？
第８回：　意味論—意味とは何か
第９回：　語用論—どうして「つまらないものですが」と言うの？
第１０回：　社会言語学—ことばの多様性と方言
第１１回：　社会言語学—若者ことば
第１２回：　社会言語学—言語の消滅
第１３回：　心理言語学—ことばの獲得と喪失
第１４回：　ことばにまつわる神話再考—学習の振り返り

テキスト
黒田龍之介（2004）『はじめての言語学』講談社現代新書1701
加藤広重（2007）『ことばの科学—学びのエクササイズ』ひつじ書房

参考書・参考資料等
高橋留美他（2021）『やさしい言語学』研究社
佐久間淳一・加藤重広・町田健『言語学入門—これから始める人のための入門書』研究社
佐久間淳一『はじめてみよう言語学』研究社
中島平三・外池滋生（編）『言語学への招待』大修館書店
その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価
授業への参加度30%、小レポート、課題、コミュニケーションカードなど30%、レポート課題40%

授業科目名： 心理言語学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 磯辺　ゆかり 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学

授業のテーマ及び到達目標

人の心のはたらきを知るためには、言語について理解することが重要である。言語の問題は、言語学や心理学の分野で研究されてきたが、最近ではコンピュータや脳の高次機能研究など、新しい分野からの研究も盛んである。この授業では、まず、言語と人のこころとの関係について、これまでどのように探求されてきたのかを、心理言語学の誕生から今日までの発展の道筋をたどることによって振り返る。具体的には、チョムスキーの生成文法理論をはじめ、主な言語習得理論について概観し、さまざまな観点から言語習得におけるメカニズムを学ぶ。また、音声・音韻、語彙、統語、意味、語用の習得、言語処理に関して、用法基盤モデルや最近の認知言語学の研究を踏まえて、身体的経験と言語表現や言語とヒトの社会的認知の問題との関連についても理解を深め、その発達基盤と発達過程について学ぶことも目的とする。さらに、言語と思考の問題について考察する。

到達目標

１．心理言語学とはどのような学問か理解する。
２．母語の獲得，外国語の習得過程を理解する。
３．ことばの知覚（理解）と意味の認知過程を理解する。
４．ことばの産出過程を理解する。

授業の概要

心理言語学の主要な分野である、言語獲得、言語理解、言語産出について学ぶ。まず、人はどのようにして母語を獲得し，第二言語を習得するのかについて心理言語学の立場から考察する。さらに，人の言語活動と心との関連を学際的に概観する。「ことばの科学」とも呼ばれるこの分野は「言語の知覚と生成」「母語獲得」「外国語習得」「記憶のメカニズム」「非言語コミュニケーション」「バイリンガリズム」「ことばと脳」「言語障害」など幅広い分野を網羅する。客観的なデータに基づいた科学的な研究アプローチで，ことばの聴解処理と生成のメカニズムについても考察する。

授業計画

第１回：　心理言語学への招待―心理言語学とはどのような学問か
第２回：　心理言語学へのアプローチ
第３回：　動物のコミュニケーション

第４回：　言語と思考 第５回：　子どもの言語獲得 第６回：　第二言語習得（１）第二言語習得研究の流れ 第７回：　第二言語習得（２）第二言語習得の理論モデル 第８回：　音声知覚 第９回：　単語の認知 第１０回：　文の構造と理解（１）文の構造 第１１回：　文の構造と理解（２）文理解の個人差とワーキングメモリ 第１２回：　言語とジェスチャー 第１３回：　失語症（１）失語症研究の流れ、失語症のタイプと症状 第１４回：　失語症（２）失語症患者における文発話の障害、学習の振り返り
テキスト 重野純（編著）（2010）『言語とこころ―心理言語学の世界を探検する』新曜社
参考書・参考資料等 村杉恵子（2014）『ことばとこころ―入門心理言語学』みみずく舎 福田由紀（編著（2012）『言語心理学入門―言語力を育てる―」培風館 その他、授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 授業への参加度30%、小レポート、課題、コミュニケーションカードなど30%、レポート課題40%

授業科目名： 社会言語学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 籔内　智 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学

授業のテーマ及び到達目標

社会や社会事象と連動しながら運用されている「ことば」の運用のメカニズムのうち、言語変種（属性とことば、場面とことば）、言語行動（敬語、ポライトネス理論、ことばのストラテジー、コードスイッチング）、言語生活（メディアとことば）、言語接触（方言の接触、多言語との接触、異言語コミュニケーション、言語の絶滅）、言語と思考といった諸分野や、関連する理論・モデル等を学ぶ。さらに、学んだ理論・モデルを活用し、社会言語学の立場から実際の言語現象を分析する。

到達目標

１．社会言語学とはどのような学問か理解する。

２．社会言語学の考え方と研究諸分野について理解する。

３．基本となる概念について例を挙げて自分のことばで説明することができる。

４．教科書の記述と授業内容を手がかりに、自らの研究テーマに関連した文献を見つけ、内容を検討することができる。

授業の概要

社会言語学は、言語を研究する観点として、「現実の社会とのかかわりの中で言語がどのように使われているか」に注目するものである。社会言語学が取り扱うテーマは多岐にわたるが、この授業では、主に、ことば（の使われ方）の多様性、言語の変化、「ことばの乱れ」意識、ことばの地域差、コミュニケーション、アイデンティティ、言語・方言接触、言語政策などについて学ぶ。また、社会言語学の実践的な方法を学ぶとともに，さまざまなフィールド，コーパスを題材に，ことばの多様性を読み解く。

授業計画

第１回：　社会言語学への招待―社会言語学とはどのような学問か

第２回：　ことばの多様性に目をひらく

第３回：　年齢差をつかむ

第４回：　時間からことばの変化をさぐる

第５回：　国会会議録をつかう

第６回：　『日本語話し言葉コーパス』をつかう

第７回：　バリエーションを分析する

第８回：　発音の変化を分析する 第９回：　日本語のメロディを考える 第１０回：　強勢のバリエーションをとらえる 第１１回：　日本語動詞可能形の変遷をたどる 第１２回：　「やばい」の変化を分析する 第１３回：　「全然」の変化を分析する 第１４回：　ことばのスタイルを理解し応用する、学習の振り返り
テキスト 　日比谷潤子（編著）（2012）『はじめて学ぶ社会言語学―ことばのバリエーションを考える14 章』（ミネルヴァ書房）
参考書・参考資料等 　岩田祐子、重光由加、村田泰美（2022）『改訂版 社会言語学–基本からディスコース分析まで』ひつじ書房 　その他、授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 　授業への参加度30%、小レポート、課題、コミュニケーションカードなど30%、レポート課題40%

授業科目名： 英語文学１	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 桑原拓也 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学

授業のテーマ及び到達目標

各々の作家とその作品の時間的・空間的特徴および文化的背景をも明らかにして、今日の国際化社会で不可欠のグローバルな視野を広げることを目的とする。主要作家の主要作品の名場面あるいは名文を読んで、作品の真髄に触れ、名作や古典と呼ばれる所以を知ることができるようにする。そして、英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国や地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。また、このような文学の歴史的考察は、文化史的視点とも重なり合い、密接に関連しあう側面を有している。その意味では、「異文化理解」を補完し、深化させる役割をも果たしているといえる。

到達目標

１．英米の文学作品において使用されている様々な英語表現について理解する。

２．英米の文学作品で描かれている、国と地域の文化について理解する。

３．英米の文学の全体像と各作家・作品の特徴を分析し考察して、その成果をまとめて発表できるようになる、そして、自らの意見をレポートにまとめることもできる。

授業の概要

主にイギリスとアメリカ合衆国で書かれた文学作品（演劇、小説、詩、など）を対象とし、社会的な背景やより広範な文化現象との関わりのなかで個別の作家や作品について学ぶ。20世紀への世紀転換期までを扱う。英米の近代文学の変遷についての概観的な知識を習得し、それぞれの作家やテクストの特徴についての理解を深める。さらには、英語文学を日本の中等教育で用いる方策を探る機会としたい。

授業計画

第１回：英語文学を学ぶにあたって

第２回：英語の歴史と英文学最古の作品：叙事詩『ベオウルフ』

第３回：シェイクスピア『ハムレット』『マクベス』

第４回：英詩の世界：ミルトン『失楽園』、ロマン派詩人

第５回：チャールズ・ディケンズ『クリスマス・キャロル』『オリバー・ツイスト』

第６回：メアリ・シェリー『フランケンシュタイン』

第７回：ジェイン・オースティン『高慢と偏見』

第８回： ナサニエル・ホーソーン『緋文字』 第９回： ハーマン・メルヴィル『書記バートルビー』 第１０回：マーク・トウェイン『トム・ソーヤーの冒険』『ハックルベリー・フィンの冒険』 第１１回：スコット・フィッツジェラルド『華麗なるギャツビー』 第１２回：アーネスト・ヘミングウェイ『老人と海』『武器よさらば』 第１３回：ウイリアム・フォークナー『８月の光』『アブサロム、アブサロム！』とラルフ・エリスン『見えない人間』 第１４回：米詩の世界（ウォルト・ホイットマン、ロバート・フロスト、エミリー・ディキンソンなど）
テキスト 浦野郁・奥村沙矢香（著）（2020）『よくわかるイギリス文学史』（ミネルヴァ書房） 適宜、教員が資料を配布します。
参考書・参考資料等 エンゲル・エリオット（Engel Elliot）（著）藤岡啓介（訳）（2006）『世界でいちばん面白い英米文学講義―巨匠たちの知られざる人生』（草思社） 石塚 久郎ら（編）（2023）『イギリス文学入門[新版]』（三修社） 竹内理矢・山本洋平（編）（2021）『深まりゆくアメリカ文学:源流と展開』（ミネルヴァ書房）
学生に対する評価 授業参加度 30%（コメントペーパーなど）、授業内発表 30%、レポート課題 40%

授業科目名： 英語文学２	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 桑原拓也 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学

授業のテーマ及び到達目標

各々の作家とその作品の時間的・空間的特徴および文化的背景をも明らかにして、今日の国際化社会で不可欠のグローバルな視野を広げることを目的とする。主要作家の主要作品の名場面あるいは名文を読んで、作品の真髄に触れ、名作や古典と呼ばれる所以を知ることができるようにする。そして、英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国や地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。また、このような文学の歴史的考察は、文化史的視点とも重なり合い、密接に関連しあう側面を有している。その意味では、「異文化理解」を補完し、深化させる役割をも果たしているといえる。

到達目標

１．英語圏の文学作品において使用されている様々な英語表現について理解する。

２．英語圏の文学作品で描かれている、国と地域の文化について理解する。

３．英語圏の文学の全体像と各作家・作品の特徴を分析し考察して、その成果をまとめて発表できるようになる、そして、自らの意見をレポートにまとめることもできる。

授業の概要

近現代の英語圏文学を対象とする（小説、詩、批評など）。この授業では、英米文学に限定せず、アジア・オセアニア・アフリカの諸地域を文化的背景とするポストコロニアル文学もとり上げ、英語圏の拡大とともに多様化した英語の種類や表現、作品の主題について学ぶとともに、今日の英語文学の社会的、文化的、歴史的多様性について理解を深める。また、中高の教科書に採用される児童文学にも着目し、講読する。さらには、英語文学を日本の中等教育で用いる方策も探る機会としたい。

授業計画

第１回：英語圏文学について―ポストコロニアル文学・世界文学・翻訳の問題

第２回：エドワード・サイード『オリエンタリズム』、G・C・スピヴァク『サバルタンは語ることができるか？』

第３回：ドリス・レッシング『草は歌っている』

第４回：サルマン・ラシュディ『真夜中の子供たち』『悪魔の詩』

第５回：アリス・ウォーカー『カラーパープル』

第６回： J・M・クッツェー『夷狄を待ちながら』『鉄の時代』 第７回： モーシン・ハミッド『コウモリの見た夢』『西への出口』 第８回： ポール・オースター『ムーン・パレス』『闇の中の男』 第９回： カズオ・イシグロ『遠い山並みの光』『浮世の画家』 第１０回：ジョセフ・オニール『ネザーランド』、バレリア・ルイセリ『ロスト・チルドレン・アーカイブ』 第１１回： オーシャン・ヴォン『地上で僕らはつかの間きらめく』 第１２回：児童文学の世界―ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』 第１３回：児童文学の世界―ライマン・フランク・ボーム『オズの魔法使い』 第１４回：児童文学の世界―A・A・ミルン『クマのプーさん』、授業の振り返り
テキスト 中井亜佐子『他者の自伝―ポストコロニアル文学を読む』（研究社）
参考書・参考資料等 木村茂雄（編）（2004）『ポストコロニアル文学の現在』（晃洋書房） デイヴィッド・ダムロッシュ（著）秋草俊一郎ら（訳）（2011）『世界文学とは何か？』（国書刊行会） レベッカ・L・ウォルコウィッツ（著）佐藤 元状ら（訳）（2022）『生まれつき翻訳: 世界文学時代の現代小説』（松籟社）
学生に対する評価 授業参加度30％（コメントペーパーなど）、授業内発表30％、レポート課題40％

授業科目名： English Communication Intermediate	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 磯辺　ゆかり 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

１年次で習得した英語の基礎を確立し、さらなる上級英語習得を見越した英語学習と位置づけ、キーコンピテンシー能力の構築を目的とする科目。キーコンピテンシーとは、知識や技能よりも一段階上位にあり、相互作用的に道具（この授業の場合、英語という言語）を用い、異質な集団で交流し、自律的に活動することができる能力を指す。英語学習の楽しさや達成感といった学びの質も経験しつつ、履修生が「聞く」「話す」「読む」「書く」４技能をバランスよく学び、批判的思考力を伴うコミュニケーション能力を身につけ、上級英語への足がかりにすることを目的とする。

到達目標

１．基本的な英語の文法概念の理解にとどまらず、文の組み立て方の規則を発展させ、状況に応じた適切な文を作り出せるようになる。

２．語彙力を伸ばす（3000～3300語）。

３．流暢な発音を習得する。

４．四技能に関しては、Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）の指標に即した到達目標におけるCEFR B1レベルを目標とする。

授業の概要

この授業では、これまでに学んだ英語の文法や語彙の知識を確認し、さらに高いレベルのコミュニケーションを可能にするための文法力・語彙力を身につける。語彙面では3300語レベルの語彙の定着を図り、文法面では基礎的な文法事項を整理・確認する。このような基礎的学力を身につけるためには、授業時間外での反復練習が必要と思われるので、自学習用テキストやウェブ教材などを通して、学外での予復習が可能になるようにする。

具体的には、コミュニケーションのための「機能」を中心とした英文法事項や語彙の学習を行う。コミュニカティブな英文法を身につけ、さらなる学習の契機と位置づけている。テキストの文法項目や設問の確認を中心に行う。それと同時に、語彙の小テストを授業時に行う。WEB教材やe-learningなどを利用し、全体学習と個別学習がバランスよく進むように考える。

そして、それと並行して、「読む」「書く」「聞く」「話す」の４技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力を養う。具体的には、社会の日常的な文脈で使われる英語を理解するとともに、身近な場面や状況におけるコミュニケーションで要求されるス

トラテジーを学び、自分の考えを英語で的確に発信できる基本的なスキルを身につける。個別学習だけでなく、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、スピーチ、オーラルプレゼンテーション、オーラルインタープリテーションなどの活動を取り入れる。これらの活動を通して、異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野も身につける。 　また、この授業ではCALL教室を利用する予定である。CALLはComputer Assisted Language Learningのことだが、ICTを効果的に利用して、より双方向性のある授業を目指している。
第１回：授業説明、自己紹介 第２回：Unit 1 Lifestyles（生活様式） (1) -- 文法・語彙 （単純過去／副詞） 第３回：Unit 1 Lifestyles（生活様式） (2) - コミュニケーション活動 第４回：Unit 2 Leisure（レジャー、余暇） (1) -- 文法・語彙（単純過去・過去進行相） 第５回：Unit 2 Leisure（レジャー、余暇） (2) -- コミュニケーション活動 第６回：Unit 3 Getting along（仲よくやっていく） (1) --文法・語彙 （依頼表現／許可を得る表現） 第７回：Unit 3 Getting along（仲よくやっていく） (2) -- コミュニケーション活動 第８回：Unit 4 Interests（興味関心） (1) -- 文法・語彙 （過去のさまざまな表現） 第９回：Unit 4 Interests（興味関心） (2) -- コミュニケーション活動 第１０回：Unit 5 Telling a story（話をする） (1) -- 文法・語彙 （単純過去／過去進行相） 第１１回：Unit 5 Telling a story（話をする） (2) -- コミュニケーション活動 第１２回：Unit 6 Celebrations（お祝い、祝賀会） (1) --文法・語彙 （未来の計画、決意） 第１３回：Unit 6 Celebrations（お祝い、祝賀会） (2) -- コミュニケーション活動 第１４回：Units １～６の復習 第１５回：中間試験 第１６回：Unit 7 Food and drink（食べ物・飲み物） (1) --文法・語彙 （可算名詞・不可算名詞） 第１７回：Unit 7 Food and drink（食べ物・飲み物） (2) -- コミュニケーション活動 第１８回：Unit 8 Rules (1)（ルール、規則） -- 文法・語彙 （必要義務・可能性） 第１９回：Unit 8 Rules (2)（ルール、規則） -- コミュニケーション活動 第２０回：Unit 9 Adventures（冒険） (1) --文法・語彙 （現在完了） 第２１回：Unit 9 Adventures（冒険） (2) -- コミュニケーション活動 第２２回：Unit 10 Health（健康） (1) --文法・語彙 （助言・提案） 第２３回：Unit 10 Health（健康）「 (2) -- コミュニケーション活動 第２４回：Unit 11 Comparisons（比較） (1) --文法・語彙 （比較級・最上級） 第２５回：Unit 11 Comparisons（比較） (2) -- コミュニケーション活動 第２６回：Unit 12 The modern world（現代世界） (1) --文法・語彙 （現在完了） 第２７回：Unit 12 The modern world（現代世界） (2) -- コミュニケーション活動 第２８回：期末試験、学習の振り返り

テキスト Miles Craven (2012) *Breakthrough PLUS 2 Student Book* (Macmillan Language House)
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 授業参加度20%、小テストや課題20%、スピーチや英作文などのスクリプト20%、中間テスト20%、期末テスト20%

授業科目名： English Communication Advanced 1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 磯辺ゆかり 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

身近な話題について比較的スムーズにコミュニケーションできる力を身につける。自分の専門分野に関する簡単な文章を書くことができるようになる。（CEFR B1からB2）

到達目標

１．基本的な英語の文法概念の理解にとどまらず、文の組み立て方の規則を発展させ、状況に応じた適切な文を作り出せるようになる。

２．語彙力を伸ばす（3300～3500語）。

３．流暢な発音を習得する。

４．四技能に関しては、Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）の指標に即した到達目標におけるCEFR B1～B2レベルを目標とする。

授業の概要

この授業では、これまでに学んだ英語の文法や語彙の知識を確認し、さらに高いレベルのコミュニケーションを可能にするための文法力・語彙力を身につける。語彙面では3300語レベルの語彙の定着を図り、文法面では基礎的な文法事項を整理・確認する。このような基礎的学力を身につけるためには、授業時間外での反復練習が必要と思われるので、自学習用テキストやウェブ教材などを通して、学外での予復習が可能になるようにする。

具体的には、コミュニケーションのための「機能」を中心とした英文法事項や語彙の学習を行う。コミュニカティブな英文法を身につけ、さらなる学習の契機と位置づけている。テキストの文法項目や設問の確認を中心に行う。それと同時に、語彙の小テストを授業時に行う。WEB教材やe-learningなどを利用し、全体学習と個別学習がバランスよく進むように考える。

そして、それと並行して、「読む」「書く」「聞く」「話す」の４技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力を養う。具体的には、社会の日常的な文脈で使われる英語を理解するとともに、身近な場面や状況におけるコミュニケーションで要求されるストラテジーを学び、自分の考えを英語で的確に発信できる基本的なスキルを身につける。個別学習だけでなく、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、スピーチ、オーラルプレゼンテーション、オーラルインタープリテーションなどの活動を取り入れる。これらの活動を通して、異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野も身につける。

また、この授業ではCALL教室を利用する予定である。CALLはComputer Assisted Language Learningのことだが、ICTを効果的に利用して、より双方向性のある授業を目指している。
第１回 : 授業説明、春休みについてのミニプレゼンテーション 第２回 : Unit 1 Memories（思い出） (1) -- 文法・語彙（規則変化動詞と不規則変化動詞） 第３回 : Unit 1 Memories（思い出） (2) - コミュニケーション活動 第４回 : Unit 2 Life changes（人生の変化） (1) --文法・語彙（現在完了と単純過去） 第５回 : Unit 2 Life changes（人生の変化） (2) -- コミュニケーション活動s 第６回 : Unit 3 Viewpoints（見解） (1) --文法・語彙（動名詞） 第７回 : Unit 3 Viewpoints（見解） (2) -- コミュニケーション活動 第８回 : Unit 4 Problems（問題、難題） (1) -- 文法・語彙（(much / many / not enoughの用法) 第９回 : Unit 4 Problems（問題、難題） (2) -- コミュニケーション活動 第１０回 : Unit 5 Thinking ahead（未来のことを考える） (1) --文法・語彙（予測と可能性） 第１１回 : Unit 5 Thinking ahead（未来のことを考える） (2) -- コミュニケーション活動 第１２回 : Unit 6 Imagine! （「想像してみて！」）(1) -- 文法・語彙（起こり得る未来についての仮定（first conditional）） 第１３回 : Unit 6 Imagine! （「想像してみて！」）(2) -- コミュニケーション活動 第１４回 : Units １～６の復習 第１５回 : 中間試験 第１６回 : Unit 7 My world（わたしの世界） (1) -- 文法・語彙（関係詞制限用法） 第１７回 : Unit 7 My world（わたしの世界） (2) -- コミュニケーション活動 第１８回 : Unit 8 Past events（過去のできごと） (1) -- 文法・語彙（さまざまな過去の表現（narrative tenses）） 第１９回 : Unit 8 Past events（過去のできごと） (2) -- コミュニケーション活動 第２０回 : Unit 9 Feeling and opinions（印象と意見） (1) -- 文法・語彙（分詞の形容詞用法） 第２１回 : Unit 9 Feeling and opinions（印象と意見） (2) -- コミュニケーション活動 第２２回 : Unit 10 What if ...?（もし～だったら？） (1) -- 文法・語彙（実際には起こり得ないことについての仮定・推量（second conditional）） 第２３回 : Unit 10 What if ...?（もし～だったら？） (2) -- コミュニケーション活動 第２４回 : Unit 11 Work it out!（せっせと働く） (1) - 語彙・文法（法助動詞と推論） 第２５回 : Unit 11 Work it out!（せっせと働く） (2) -- コミュニケーション活動 第２６回 : Unit 12 Looking back（過去を振り返る） (1) -- 語彙・文法（受動態） 第２７回 : Unit 12 Looking back（過去を振り返る） (2) -- コミュニケーション活動 第２８回 : 期末試験、学習の振り返り

テキスト Miles Craven (2012) *Breakthrough PLUS 3 Student Book* (Macmillan Language House)
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 授業参加度20%、小テストや課題20%、スピーチや英作文などのスクリプト20%、中間テスト20%、期末テスト20%

授業科目名： English Communication Advanced 2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 磯辺ゆかり 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

身近な具体多的な話題だけでなく、専門分野の抽象的な話題についてもコミュニケーションできる力を身につける。母語話者と標準的な話し方であれば、比較的流ちょうにやりとりができるようになる。（CEFR B2）

到達目標

１．基本的な英語の文法概念の理解にとどまらず、文の組み立て方の規則を発展させ、状況に応じた適切な文を作り出せるようになる。

２．語彙力を伸ばす（3500～4000語）。

３．流暢な発音を習得する。

４．四技能に関しては、Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）の指標に即した到達目標におけるCEFR B2レベルを目標とする。

授業の概要

この授業では、これまでに学んだ英語の文法や語彙の知識を確認し、さらに高いレベルのコミュニケーションを可能にするための文法力・語彙力を身につける。語彙面では3300語レベルの語彙の定着を図り、文法面では基礎的な文法事項を整理・確認する。このような基礎的学力を身につけるためには、授業時間外での反復練習が必要と思われるので、自学習用テキストやウェブ教材などを通して、学外での予復習が可能になるようにする。

具体的には、コミュニケーションのための「機能」を中心とした英文法事項や語彙の学習を行う。コミュニカティブな英文法を身につけ、さらなる学習の契機と位置づけている。テキストの文法項目や設問の確認を中心に行う。それと同時に、語彙の小テストを授業時に行う。WEB教材やe-learningなどを利用し、全体学習と個別学習がバランスよく進むように考える。

そして、それと並行して、「読む」「書く」「聞く」「話す」の４技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力を養う。具体的には、社会の日常的な文脈で使われる英語を理解するとともに、身近な場面や状況におけるコミュニケーションで要求されるストラテジーを学び、自分の考えを英語で的確に発信できる基本的なスキルを身につける。個別学習だけでなく、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、スピーチ、オーラルプレゼンテーション、オーラルインタープリテーションなどの活動を取り入れる。これらの活動を通して、異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野も身につける。また、この授業で

はCALL教室を利用する予定である。CALLはComputer Assisted Language Learningのことだが、ICTを効果的に利用して、より双方向性のある授業を目指している。
第１回 : 授業説明、夏休みについてのミニプレゼンテーション 第２回 : Unit 1 Success（個人の成功） (1) -- 文法・語彙（時制と相） 第３回 : Unit 1 Success（個人の成功） (2) - コミュニケーション活動 第４回 : Unit 2 Difficult decisions（困難な決断をする） (1) -- 語彙・文法（さまざまな仮定法） 第５回 : Unit 2 Difficult decisions（困難な決断をする） (2) - コミュニケーション活動 第６回 : Unit 3 Keeping busy（生活様式、好みを伝える） (1) -- 文法・語彙（動詞のパターン） 第７回 : Unit 3 Keeping busy（生活様式、好みを伝える） (2) - コミュニケーション活動 第８回 : Unit 4 He said what?（できごとを報告する） (1) -- 文法と語彙（間接話法） 第９回 : Unit 4 He said what?（できごとを報告する） (2) - コミュニケーション活動s 第１０回 : Unit 5 Changes（生活の変化と環境） (1) -- 文法・語彙（受動態） 第１１回 : Unit 5 Changes（生活の変化と環境） (2) - コミュニケーション活動 第１２回 : Unit 6 You can’t do that!（契約と責任） (1) -- 文法・語彙（さまざまな法助動詞） 第１３回 : Unit 6 You can’t do that!（契約と責任） (2) - コミュニケーション活動 第１４回 : Units １～６の復習 第１５回 : 中間試験 第１６回 : Unit 7 Influences（人生における影響） (1) -- 文法・語彙（関係詞節） 第１７回 : Unit 7 Influences（人生における影響） (2) - コミュニケーション活動 第１８回 : Unit 8 If I hadn’t…（議論と帰結） (1) -- 文法・語彙（仮定法過去完了（third conditional）） 第１９回 : Unit 8 If I hadn’t…（議論と帰結） (2) - コミュニケーション活動 第２０回 : Unit 9 Past regrets（願いと後悔） (1) -- 文法・語彙（(If only/I wish + 過去完了） 第２１回 : Unit 9 Past regrets（願いと後悔） (2) - コミュニケーション活動 第２２回 : Unit 10 Looking ahead（将来の計画） (1) -- 文法・語彙（さまざまな未来の表現） 第２３回 : Unit 10 Looking ahead（将来の計画） (2) - コミュニケーション活動 第２４回 : Unit 11 It’s a hard life（就職面接と仕事） (1) -- 文法・語彙（さまざまな疑問の形） 第２５回 : Unit 11 It’s a hard life（就職面接と仕事） (2) - コミュニケーション活動 第２６回 : Unit 12 Women and men（性に関するステレオタイプと平等性） (1) -- 文法・語彙（冠詞） 第２７回 : Unit 12 Women and Men（性に関するステレオタイプと平等性） (2) -- コミュニケーション活動 第２８回 : 期末試験、授業の振り返り
テキスト Miles Craven (2013) *Breakthrough PLUS 4 Student Book* (Macmillan Language Ho

use)
参考書・参考資料等 　授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 　授業参加度20%、小テストや課題20%、スピーチや英作文などのスクリプト20%、中間テスト20%、期末テスト20%

授業科目名： World Englishes	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 籔内　智 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

この授業では、社会及び言語使用へのグローバル化の影響と英語の国際的普及の過程を概観する。そのあと、特に英米などの英語を母語とする国々（Inner Circle）とアジアやアフリカ諸国（Outer Circle、Expanding Circle）などにおいて多様化した英語変種の言語的特徴について学習し、実際にその変種を聞く力を身につける。

到達目標

１．多様化した英語変種の地域的特徴（音声、語彙、文法等）とその歴史的変遷の背景について理解し、まとめることができる。

２．国際共通語としての英語でのコミュニケーションの実態や特徴についてまとめることができる。

３．標準語イデオロギーや英語母語話者信仰などの「英語」を取り巻く問題とその重要性について説明することができる。

４．多様な英語変種に親しみ、特に音声的な特徴を知り、変種の相違を把握しながら、実際に聞き分けることができる。

授業の概要

グローバル社会における英語の役割を理解し、求められる英語コミュニケーション能力を身につける。英語の国際的普及は、地域の社会的要因に関連して多様な英語変種を生み出した。イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの各英語だけでなく、インド、シンガポール、ベトナム、中国、韓国、日本等のアジア諸国でも多様な「英語変種」が存在し、これらは“World Englishes”と複数形で呼ばれている。英語変種それぞれの発音、文法、語彙の特徴について学ぶ。ただ、書きことばは話しことばほど違いが大きくないので、この授業では、特に、音声に重点を置いて学ぶ。個々の発音、リズム、アクセント、イントネーションの特徴を理解した上で、多様な英語変種が確実に聞き取れるようにする。また、教職科目として、非英語母語話者としてどのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する機会にもしたい。

授業計画

第１回：授業説明、概略、英語のルーツと広がり

第２回：英語の変種 (1) Inner Circle（内円）

第３回 : 英語の編集 (2) Outer Circle（外円）およびExpanding Circle（拡大円）
第４回 : Inner Circle（内円） -- イギリス英語
第５回 :『マイ・フェア・レディ』（イギリス英語）視聴と聞き取り練習
第６回 : Inner Circle（内円） -- ウェールズ、スコットランド、アイルランドの英語
第７回 :『メリダとおそろしの森』（スコットランド英語）視聴と聞き取り練習
第８回 : Inner Circle（内円） - アメリカ英語
第９回 :『フォレスト・ガンプ』（アメリカ英語）視聴と聞き取り練習
第１０回 : Inner Circle（内円） - カナダ英語
第１１回 : Inner Circle（内円） - オーストラリア英語とニュージーランド英語
第１２回 :『クロコダイル・ダンディー』（オーストラリア英語）視聴と聞き取り練習
第１３回 : Inner Circle（内円） - 南アフリカ英語
第１４回 :『ブラッド・ダイヤモンド』（南アフリカ英語）視聴と聞き取り練習
第１５回 : Outer Circle（外円） - 東南アジア（韓国）
第１６回 :『英語完全征服』（韓国英語）視聴と聞き取り練習
第１７回 : Outer Circle（外円） - 東南アジア（中国、香港）
第１８回 :『ラッシュアワー３』（香港英語）視聴と聞き取り練習
第１９回 : Outer Circle（外円） - 東南アジア（日本）
第２０回 :『ラストサムライ』（日本英語）視聴と聞き取り練習
第２１回 : Outer Circle（外円） - 東南アジア（シンガポール）
第２２回 :『フォーエバー・フィーバー』（シンガポール英語）視聴と聞き取り練習
第２３回 : Outer Circle（外円） - 東南アジア医（フィリピン）
第２４回 : Outer Circle（外円） - 南アジア（ベトナム）
第２５回 : Outer Circle（外円） - アジア（インド）
第２６回 :『マダム・イン・ニューヨーク』（インド英語）視聴と聞き取り練習
第２７回 : Outer Circle（外円） - 他の国々や地域（ジャマイカ、メキシコ、フィジー）
第２８回 :『ジャマイカ　楽園の真実』（ジャマイカ英語）、『スパングリッシュ』（メキシコ英語）視聴と聞き取り練習

テキスト

Gunnel Melchers, Philip Shaw, and Peter Sundkvist (2019) *World Englishe*s Routledge

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業参加度20%、レポート課題30%、授業内発表30%、小テスト20%

授業科目名： English Discussion	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 佐藤嘉晃
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

日常生活場面から学術的な場面に至るまで、さまざまな場面において、英語で話す際の基本的な技能を学ぶ。また、効果的にコミュニケーションを行うためのノウハウも学ぶ。

到達目標

１．コミュニケーション能力を高めることに関心を持ち、どのようにすれば相手に伝わるか、他者の意見を聞くことが可能か工夫することができる。

２．グローバル社会で求められるコミュニケーションの基礎、ディベート、グループディスカッションに関する知識を深めることができる。

３．獲得した知識を活用して、ディスカッションやディベートを実践することで、知識と実践の能力を向上させることができる。

４．CEFRの基準であるB1からB2レベルを目標とする。

授業の概要

この授業では、ディスカッションに関する理解を深め、英語ディスカッションやディベートを実践的に学ぶ。前半は、身近な生活や身の回りの人々に関するさまざまなトピックを取り上げ、ペアもしくは小グループによるディスカッションを行う。また、各自でトピックの研究を行い、そのトピックについて自分の主張を述べる必要があるグループディスカッションも体験する。後半は、日本人学習者にはあまりなじみがないディベートも取り入れ、より抽象度の高いトピックを取り上げ、グローバル社会における実践的なコミュニケーション能力を高めることを目指す。

授業計画

第１回 : 授業説明、Lesson 1 Introductions（自己紹介、クラスメイトの紹介）

第２回 : Lesson 2 Favorite Things（好きなもの）

第３回 : Lesson 3 Diet and Exercise（ダイエットと運動）

第４回 : Lesson 4 Transportation（交通機関）

第５回 : Lesson 5 Pets（ペット）

第６回 : Lesson 6 Job Interviews（就職面接）

第７回 : Lesson 7 The Best of Everything（もっとも好きなこと）

第８回 : Lesson 8 Family（家族）
第９回 : Lesson 9 Gender Roles（性役割）
第１０回 : Lesson 10 Holidays（祝日、休暇）
第１１回 : Lesson 11 Superstitions（迷信）
第１２回 : Lesson 12 Sleep（睡眠）
第１３回 : Lesson 13 Stealing（窃盗）
第１４回 : Lesson 14 Gossip（ゴシップ）
第１５回 : Lesson 15 Ghosts and the Supernatural（幽霊や超自然的存在）
第１６回 : Lesson 16 Love（愛）
第１７回 : Lesson 17 Stress（ストレス）
第１８回 : Lesson 18 Moving Children Out（子どもを連れ出す）
第１９回 : Lesson 19 Growing Old（歳を取る）
第２０回 : Lesson 20 Pollution and Recycling（公害とリサイクル）
第２１回 : Lesson 21 The Homeless and Welfare（ホームレスと福祉）
第２２回 : Lesson 22 Disasters（災害）
第２３回 : Lesson 23 Smoking（喫煙）
第２４回 : Lesson 24 Gambling（ギャンブル）
第２５回 : Lesson 25 War and the Military（戦争と軍隊）
第２６回 : Lesson 26 Money Management（お金の管理）
第２７回 : Lesson 27 Cheating（カンニング）
第２８回 : Lesson 28 Government Spending（財政支出）
（テキストはLesson 40まであるので、受講生の興味関心によって内容を変更する可能性がある）

テキスト

Brana Rish West (1997) *Talk Your Head Off (--and write, too!)* Prentice Hall Regents

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業参加度20%、ディスカッション参加度50%、まとめのWriting課題30%

授業科目名： Effective Presentation	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 佐藤嘉晃
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

確かな語彙と文法の力を土台にして、世界基準の英語コミュニケーション能力と弁論の力を磨くだけでなく、クロスカルチュラルコミュニケーション技能を身につける。具体的には、プレゼンテーションソフトウェアなどを利用して、効果的なプレゼンテーション、論理の組み立て方、説明のしかた、例の利用方法、話し方など英語でプレゼンテーションを行うための理論と実践を学習する。前半は、自己紹介、自分の宝物や京都の観光地を外国人に紹介するなど具体的なトピックを中心に扱い、テーマの選び方、スピーチの準備の仕方、分かりやすい説明方法、作文の仕方、視聴覚資料の利用方法、実際に話す方法、デリバリーの注意点などを学習し、実際に英語でプレゼンテーションを行う。後半は、異文化理解に関するより抽象的なトピックを設定し、テーマの選び方、スピーチの準備の仕方、分かりやすい説明方法、スクリプトの作成方法、視聴覚資料の利用方法、実際に話す方法、デリバリーの注意点などを学習し、実際に英語でプレゼンテーションを行う。

到達目標

１．プレゼンテーションについて理解し、設計や評価の考え方が説明できる。
２．プレゼンテーションソフトウェアなどを用いて、適切な資料を作成することができる。
３．相手や聴衆を意識して、堂々とした態度（声や表情を含む）発表をおこなうことができる。
４．グループで協働して、課題の解決にあたることができる。
５．CEFRの基準であるB1からB2レベルを目標とする。

授業の概要

この授業では、主にプレゼンテーションに関する理解を深め、効果的なプレゼンテーションを実践的に学ぶ。前半は、口頭でのプレゼンテーションに関するテキストの内容を理解するかたわら、自己紹介、私の宝物、京都探訪という具体的なテーマに沿って、様々なメディアを活用しながらプレゼンテーションを行う。特に、Physical Aspects、Oral Aspects、Visual Aspectsに焦点を当てる。後半は、口頭でのプレゼンテーションに関するテキストの内容を理解するかたわら、より抽象度の高い内容について、様々なメディアを活用しながらプレゼンテーションを行う。後半は特に、Organizational Aspectsに重点を置き、学術的なプレゼンテーションができることを目指す。

授業計画 第１回：授業説明、簡単な自己紹介 第２回：Self-introduction（自己紹介） 第３回：Unit 1 Presentation Structure（プレゼンテーションの構成） 第４回：Unit 2 Informative-style Presentation（情報を伝えるプレゼンテーション） 第５回：Unit 3 Persuasive-style Presentation（相手を説得するプレゼンテーション） 第６回：Show and tell：見せて話す（わたしの宝物）(1グループ) 第７回：Show and tell：見せて話す（わたしの宝物）(2グループ)) 第８回：Unit 4 Making Effective Slides（効果的なスライドを作る） 第９回：Unit 5 Visualizing Textual Information（テキスト情報を視覚化する） 第１０回：Unit 6 Visualizing Quantitative Data（量的データを視覚化する） 第１１回：ミニプロジェクト（京都探訪）(1グループ)) 第１２回：ミニプロジェクト（京都探訪）(2グループ)) 第１３回：ミニプロジェクト（京都探訪）(3グループ)) 第１４回：Unit 7 Pronunciation Focus（句読法） 第１５回：Unit 8 Telling Delivery（効果的な話し方） 第１６回：Unit 9 Non-verbal Communication（非言語コミュニケーション） 第１７回：中間プレゼンテーション (1グループ)) 第１８回：中間プレゼンテーション (2グループ)) 第１９回：Unit 10 Q&A Session Strategies（質疑応答のしかた） 第２０回：Unit 11 Rehearsal and Practice（リハーサルと練習） 第２１回：Unit 12 Final Presentation（最終プレゼンテーション） 第２２回：プレゼンテーション (1グループ)) 第２３回：プレゼンテーション (2グループ)) 第２４回：ミニプロジェクト（異文化理解に関するトピック）(1グループ)) 第２５回：ミニプロジェクト（異文化理解に関するトピック）(2グループ)) 第２６回：ミニプロジェクト（異文化理解に関するトピック）(3グループ)) 第２７回：最終プレゼンテーション (1グループ)) 第２８回：最終プレゼンテーション (2グループ))
テキスト：　JACET関西支部教材開発研究会（編）『新・英語でプレゼンテーション（Power Presentation [New Edition]）』三修社
参考書・参考資料等：授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価：授業参加度20%、小テストや課題20%、スピーチや英作文などのスクリプト30%、プレゼンテーション30%

授業科目名： 国際文化概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 藤枝　絢子 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解

授業のテーマ及び到達目標

「国際文化とは何か」という根源的な問いから出発し、国際文化研究が果たす社会的有用性と、それを学ぶことの意味について考える。また文化を広く捉え、各地域の社会のありようにも目を向け「異文化」について理解を深める。

到達目標

１．異文化、異文化理解とは何かについて理解し、説明できる。

２．言語、非言語、文化、コミュニケーション、自己、他者の関係について理解し、説明できる。

３．異文化間コミュニケーションにおいて起こりうる問題と原因を理解し、解決法を考えることができる。

授業の概要

異文化コミュニケーション、英語圏の人々と日本人とのコミュニケーションを軸に、文化によるコミュニケーションの方法の違いを学ぶ。文化の違いによる、考え方、言語行動、また非言語コミュニケーションにも着目し、その重要性も認識する。異文化コミュニケーションの基本的知識を習得する。

授業計画

第１回：異文化とは何か、異文化理解とは何か

第２回：グローバル化する社会における異文化理解

第３回：グローバル言語としての英語

第４回：文化と言語のかかわり

第５回：言語コミュニケーションの諸問題

第６回：異言語による言語コミュニケーションの諸問題

第７回：非言語コミュニケーションの諸問題

第８回：自己と他者、集団と自己

第９回：文化による空間、時間に関する考え方の違い

第１０回：英米文化以外の文化

第１１回：異文化との接触、ステレオタイプ

第１２回：異文化適応と異文化受容

第１３回：カルチャーショック、異文化理解の阻害要因とメディア 第１４回：英語表現に表れた文化的な考え方（翻訳の諸問題）
テキスト 伊藤明美（2020）『異文化コミュニケーションの基礎知識―「私」を探す、世界と「関わる」』（大学教育出版）
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 授業参加度20％、レポート課題30％、授業内発表30％、小テスト20％

授業科目名： 国際文化研究	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 清水　貴夫
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解

授業のテーマ及び到達目標

・グローバル社会における文化研究の概念を理解する。異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。

・地域研究の手法を学ぶことで、文化の多様性及び異文化交流の意義について理解している。

・コミュニケーションツールとしての英語について理解している。

授業の概要

国際文化を研究するにあたって身につけておくべき手法を獲得するための科目。みなさんは、地域研究や異文化理解、さらにコミュニケーションツールとしての英語をめぐる諸問題など、国際文化を学ぶ上で必要となる視点と方法論などを具体的に理解することが目標となります。

授業計画

第１回：ガイダンス、グローバル社会における文化研究の概念

第２回：世界の事例から地域を考える

第３回：現場で学ぶ：既存情報から地域を理解する

第４回：現場で学ぶ：観察：地域を歩いて情報を集める

第５回：現場で学ぶ：情報整理とフィールドワーク実践準備

第６回：コミュニケーションツールとしての言語

第７回：地域研究と自然環境

第８回：地域研究と文化

第９回：地域研究と社会

第１０回：地域研究と歴史

第１１回：地域研究と宗教

第１２回：地域研究と政治経済

第１３回：地域社会における家族や民族文化、宗教、政治形態

第１４回：授業の振り返りとまとめ

定期試験

テキスト

講義内でプリント等を配布します

参考書・参考資料等

・北村英哉・唐沢穣（編）2018『偏見や差別はなぜ起こる？心理メカニズムの解明と現象の分析』ちとせプレス ・スコット，ジョーン・W　（李孝徳（訳））2012『ベールの政治学』みすず書房 ・亀井伸孝2009『手話の世界を訪ねよう』岩波書店
学生に対する評価 コミュニケーションカードの内容45%、中間レポート（2回）各15%、期末試験25%

授業科目名： 国際文化特講1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木　赳生 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解

授業のテーマ及び到達目標

・文化の多様性や異文化理解についての現状と課題を理解している

・境界を越えたつながりを捉えるグローバル・ヒストリーの視点から異文化を理解している

・今も続く植民地化の影響を捉えようとするポストコロニアルの視点から異文化を理解している。

授業の概要

国際文化を学ぶために、異文化理解について探究する科目。多様な文化についての知識を深め、文化や価値観の違いを理解するとともに、異なる文化的背景を持つ人々と効果的にコミュニケーションをとるための基本的な概念や方法を学びます。

授業計画

第１回：イントロダクション：旅する想像力

第２回：グローバル・ヒストリーの視点①：国民国家史からの離脱

第３回：事例研究１：地域と地域を結ぶ移民史

第４回：事例研究２：モノを介したつながり

第５回：グローバル・ヒストリーの視点②：欧米中心主義からの離脱

第６回：事例研究３：先住民の対抗史

第７回：事例研究４：複数のフェミニズムズ

第８回：ポストコロニアルの視点①：旧帝国中心地のコロニアリティ

第９回：事例研究１：「多文化共生」はどのような土俵に立っているか

第１０回：事例研究２：パスポートはだれに与えられるか

第１１回：ポストコロニアルの視点①：定住型植民地のコロニアリティ

第１２回：事例研究３：遺骨は物か魂か

第１３回：事例研究４：性別はだれがつくったか

第１４回：　授業の振り返り

定期試験

テキスト

授業時に配布する

参考書・参考資料等

・Sebastian Conrad, 2016, What Is Global History?, Princeton University Press.（小田原琳訳，2021年，『グローバル・ヒストリー――批判的歴史叙述のために』岩波書店．） ・鶴見良行，1982，『バナナと日本人――フィリピン農園と食卓のあいだ』岩波書店
学生に対する評価 授業参加度：50%、レポート課題：50%

授業科目名： 国際文化特講3	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 清水　貴夫 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解

授業のテーマ及び到達目標

・現代社会と文化を理解するための社会学的な理論と分析方法を習得する。

・講義で提示する都市、若者文化、教育のトピックに沿って比較する、それぞれの社会や文化について理解する。

・受講者自身が自分の関心領域について「社会」の比較ができるようになる。

授業の概要

この講義では、「社会を見る目」を養うことを目的とします。

一言に「社会を見る」と言っても、漠然としてなかなかイメージがわかないかもしれません。これは、そもそも「社会、文化」とは何か、また、どのような「視点（見る目）」から「社会、文化」を見るか、という二つのことが理解できていなければなりません。

この講義では、社会学の理論を紹介し、「歴史、社会、文化」や「視点（見る目）」がどのような変遷をたどり、現在、どのような理解がなされているか、という点を中心に説明します。そして、「比較」という点についても事例を提示しながら具体的に考えていきたいと思います。

授業計画

第１回：ガイダンス/イントロダクション　時間と空間を比較する

第２回：「社会」の成り立ち：人文社会学上の偉人（「社会学者」）たち

第３回：「社会」の成り立ち：「近代」をめぐる議論

第４回：「社会」の成り立ち：「現代」とはどのような時代か？

第５回：空間を横断する：人類の移動と移動する権利について

第６回：日本の移民と海外の移民１（日本の移民問題）

第７回：日本の移民と海外の移民２（ヨーロッパの移民問題）

第８回：アフリカ系の移民の文化１（なぜ日本を目指し「た」のか？）

第９回：「移民」という問題 設定再考

第１０回：私たちにとっての文化（宗教的視点から）

第１１回：宗教と社会、文化（イスラームとキリスト教）

第１２回：宗教と社会、文化（アフリカのイスラームの経緯）

第１３回：宗教と社会、文化（アフリカのイスラームの現在）

第１４回：授業の振り返り 期末試験
テキスト 授業内にて配布
参考書・参考資料等 高木聖・村田雅之・大島武2006『はじめて学ぶ　社会学』慶應義塾大学出版会
学生に対する評価 授業での取り組み：45％、小レポート：15％、期末試験：40％

授業科目名： 国際文化特講4	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： Yoo SooKyung 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解

授業のテーマ及び到達目標

・多様な文化や異文化コミュニケーションについて理解している。

・文化の多様性や異文化交流の意義について理解している。

・文化の個別的性格と普遍的性格を比較文化の視点から理解している。

授業の概要

国際文化を学ぶために、比較文化について探究する科目です。みなさんは多様な文化が接触する社会において、文化が個別的性格と普遍的性格とをもつことを比較を通して理解し、個別文化の価値を認識する力を養うことを学びます。

授業計画

第１回：イントロダクション、異文化について考える

第２回：グローバル化する世界における比較文化の視点

第３回：文化の個別的性格と普遍的な性格について

第４回：異なる文化の間で相互に理解するために

第５回：異文化理解のためのコミュニケーション手段

第６回：言語的コミュニケーションから視たマンガ

第７回：非言語的コミュニケーションから視たマンガ

第８回：異文化理解（アジア）

第９回： マンガを通じた異文化理解（アジア）

第１０回：異文化理解（欧米）

第１１回：マンガを通じた異文化理解（欧米）

第１２回：異文化理解（アフリカ）

第１３回：マンガを通じた異文化理解（アフリカ）

第１４回：異文化理解のために外国語を学ぶ意味

テキスト

授業中にて配布する。

参考書・参考資料等

・佐野 正之著『異文化理解のストラテジー：50の文化的トピックを視点にして』大修館書店

・原沢伊都夫著『異文化理解入門』研究社

学生に対する評価 授業への参加度30%、小レポート・コミュニケーションカードなど30%、レポート課題40%

授業科目名： 英語科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 磯辺　ゆかり 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

これからの英語教員に求められる資質能力は、高い英語運用能力だけでなく、確かな知識と理論に裏づけられた教科指導力、さらに反省的実践者として日々意欲的に授業に取り組む姿勢が一層重要となる。この授業では、まず、各種教授法、四技能の指導法、測定や評価など教育実践につながる理論に考察を加え、教科指導力の基盤を養う。あわせて、実際の授業に必要な教材分析、授業構成、そして模擬授業に繋がるより実践的な力を養う。

到達目標

１．外国語を学ぶことの背景にある理論的な枠組み（英語教育の目的、今後の方向性、学習指導要領が示す基本的指針、外国語習得理論、教授法、測定・評価論、学習者論、教師論など）について教員として備えるべき基礎的事項を理解する。

２．外国語（英語）教育についての諸問題を批判的に考え、説明することができる。

３．自らの学習を振り返り、改善点を挙げることができる。

授業の概要

この授業は、英語教員として備えるべき基礎的な知識や技能について学ぶことを目的としている。具体的には、まず小学校から高等学校における英語教育の目的、今後の方向性、学習指導要領が示す基本的指針、コミュニケーション能力などについて触れたのち、外国語習得理論（第二言語習得論）、外国語教授法、教育測定・評価論、外国語学習者論、外国語教師論などについて、それぞれの重要点を学習する。また、単なる知識の習得に終わらず、教育現場の実際についても理解を深めていく。

授業計画

第１回：英語教育（英語学習）の目的

第２回：英語教育を取り巻く諸問題

第３回：学習指導要領とコミュニケーション能力

第４回：第二言語習得理論とその研究（１）言語形式から見る

第５回：第二言語習得理論とその研究（２）言語使用から見る

第６回：第二言語習得理論とその研究（３）文化受容から見る

第７回：外国語教授法（１）訳読系教授法

第８回：外国語教授法（２）直接法系教授法

第９回 : 外国語教授法（３）認知系教授法 第１０回 : 測定と評価（１）テスティング理論と測定方法 第１１回 : 測定と評価（２）形成的評価・総括的評価・診断的評価／相対評価と絶対評価 第１２回 : 測定と評価（３）観点別評価とルーブリック 第１３回 : 学習者論 第１４回 : 教師論、学習のまとめと振り返り
テキスト 森島泰則『なぜ外国語を身につけるのは難しいのか―「バイリンガルを科学する」言語心理学』（勁草書房） 望月昭彦(編著)『新学習指導要領にもとづく英語科教育法（第３版）』（大修館書店）
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成30年告示 文部科学省）
学生に対する評価 授業参加度20%、レポート課題30%、授業内発表30%、小テスト20%

授業科目名： 英語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 磯辺　ゆかり 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

これからの英語教員に求められる資質能力は、高い英語運用能力だけでなく、確かな知識と理論に裏づけられた教科指導力、さらに反省的実践者として日々意欲的に授業に取り組む姿勢が一層重要となる。この授業では、まず、各種教授法、四技能の指導法、測定や評価など教育実践につながる理論に考察を加え、教科指導力の基盤を養う。あわせて、実際の授業に必要な教材分析、授業構成、そして模擬授業に繋がるより実践的な力を養う。

到達目標

１．外国語を学ぶことの背景にある理論的な枠組み（英語教育の目的、今後の方向性、学習指導要領が示す基本的指針、外国語習得理論、教授法、測定・評価論、学習者論、教師論など）について教員として備えるべき基礎的事項を十分に理解できる。

２．外国語（英語）教育についての諸問題を批判的に考え、説明することができる

３．自らの学習を振り返り、改善点を挙げることができる

授業の概要

この授業は、英語教員として備えるべき基礎的な知識や技能について学ぶことを目的としている。具体的には、まず小学校から高等学校における英語教育の目的、今後の方向性、学習指導要領が示す基本的指針、コミュニケーション能力などについて触れたのち、外国語習得理論（第二言語習得論）、外国語教授法、教育測定・評価論、外国語学習者論、外国語教師論などの学習を踏まえて、実際的な英語技能の指導について考える。また、単なる知識の習得に終わらず、教育現場の実際についても理解を深める。

授業計画

第１回：英語教育と英語教育学

第２回：学習指導要領とは何か

第３回：小学校学習指導要領を知る（「外国語活動」と「外国語（英語）」）

第４回：中学校学習指導要領を知る

第５回：高等学校学習指導要領を知る

第６回：学習指導要領とコミュニケーション能力の育成

第７回：英語科における授業運営の基礎知識

第８回：リスニングの指導

第９回：スピーキングの指導 第１０回：リーディングの指導 第１１回：ライティングの指導 第１２回：文法の学習と指導 第１３回：語彙と辞書検索指導 第１４回：ALTとのティーム・ティーチング、ICTとe-Learning
テキスト 望月昭彦(編著)『新学習指導要領にもとづく英語科教育法（第３版）』（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領諸解説　外国語編』(平成29年告示 文部科学省) 文部科学省『高等学校学習指導要領諸解説　外国語編』(平成30年告示 文部科学省) 三省堂『New Crown English Series 1, 2, 3』（中学校検定教科書） 三省堂『Crown English Communication Ⅰ, Ⅱ』（高等学校検定教科書）
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 授業参加度20%、レポート課題30%、授業内発表30%、小テスト20%

授業科目名： 英語科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 籔内　智
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

これからの英語教員に求められる英語科教育指導法の理論と実践について理解を深めるとともに、指導に必要な実践力を習得する。

到達目標

１．英語教員に求められる英語科教育の基本となる知識を身につける。

２．小学校、中学校および高等学校の学習指導要領に掲げられている外国語教育の目標と内容を理解し、検定教科書の教材分析をすることができる

３．英語の到達目標達成に必要な指導法を理解し、指導技術を身につける。

授業の概要

この授業は、英語教員として備えるべき基礎的な知識や技能について学ぶことを目的としている。具体的には、まず小学校から高等学校における学習指導要領を理解し、学習到達目標とそれを達成するための指導法および言語活動について学び、教材分析をし、学習指導案作成、さらには、実践的コミュニケーション能力を育成するめの指導技術を身につけ、模擬授業を行う。

授業計画

第１回：学習指導要領と検定教科書

第２回：授業準備

第３回：模範授業の観察参加

第４回：学習指導案の作成にあたって

第５回：学習指導案の作成（１）中学校１年生

第６回：中学校１年生「３人称単数現在」のマイクロティーチングとディスカッション

第７回：学習指導案の作成（２）中学校２年生

第８回：中学校２年生「to不定詞」のマイクロティーチングとディスカッション

第９回：学習指導案の作成（３）中学校３年生

第１０回：中学校３年生「現在完了」のマイクロティーチングとディスカッション

第１１回：学習指導案の作成（４）高等学校　コミュニケーション英語Ⅰ

第１２回：「リーディングセクション」のマイクロティーチングとディスカッション

第１３回：小学校における英語教育と小・中連携の英語教育

第１４回：模擬授業とディスカッション
テキスト 望月昭彦(編著)『新学習指導要領にもとづく英語科教育法（第３版）』（大修館書店） 加藤茂夫・杉山敏・荒木美恵子『英語科教育実習ハンドブック（第４版）』（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領諸解説　外国語編』（平成29年告示 文部科学省） 文部科学省『高等学校学習指導要領諸解説　外国語編』(平成30年告示 文部科学省) 三省堂『New Crown English Series 1, 2, 3』（中学校検定教科書） 三省堂『Crown English Communication Ⅰ, Ⅱ』（高等学校検定教科書）
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 授業参加度20%、レポート課題20%、授業内発表・実践40%、小テスト20%

授業科目名： 英語科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 籔内　智 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

これからの英語教員に求められる英語科教育指導法の理論と実践について理解を深めるとともに、指導に必要な実践力を習得する。

到達目標

１．英語教員に求められる英語科教育の基本となる知識を身につける。

２．検定教科書の教材分析や授業の組み立て方を理解し、学習指導案の作成することができる

３．作成した学習指導案をもとに、模擬授業をすることができる

授業の概要

この授業では、これまで学んできたことを統合し、その集大成として、教育実習で実際に英語の授業を行う実践力を身につける。具体的には、学習到達目標とそれを達成するための指導法および言語活動について学び、教材分析をし、学習指導案作成、さらには、実践的コミュニケーション能力を育成するめの指導技術を身につけ、模擬授業を行う。

授業計画

第１回：教育実習の目的と実習前の準備、学校現場の現状

第２回：授業の構成、授業の準備

第３回：授業の工夫（１）文字の指導

第４回：授業の工夫（２）文法や文型の導入と言語活動

第５回：「文法の導入および言語活動」のマイクロティーチングとディスカッション

第６回：授業の工夫（４）語彙の導入と指導

第７回：「語彙導入」のマイクロティーチングとディスカッション

第８回：授業の工夫（５）リーディングの指導とライティングの指導

第９回：授業の工夫（６）リスニングの指導とスピーキングの指導

第１０回：異文化理解に関する指導

第１１回：ティーム・ティーチング

第１２回：教具・教材・ICTの活用

第１３回：教室管理、教室英語

第１４回：授業評価

テキスト

望月昭彦(編著)『新学習指導要領にもとづく英語科教育法（第３版）』（大修館書店） 加藤茂夫・杉山敏・荒木美恵子『英語科教育実習ハンドブック（第４版）』（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領諸解説　外国語編』（平成29年告示 文部科学省） 文部科学省『高等学校学習指導要領諸解説　外国語編』(平成30年告示 文部科学省) 三省堂『New Crown English Series 1, 2, 3』（中学校検定教科書） 三省堂『Crown English Communication Ⅰ, Ⅱ』（高等学校検定教科書）
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 授業参加度20%、レポート課題20%、授業内発表・実践40%、小テスト20%

授業科目名： 人権教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 住友 剛 担当形態： 単独

科　目	大学が独自に設定する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業の到達目標及びテーマ

１．子どもの人権論、特に子どもの権利条約の趣旨に関する理解を深めること。

２．学校における人権教育の理論・実践についての基礎的な知識を得ること。

３．この科目で学んだことをふまえて、学校における人権教育の実践について何か具体的な取組みを構想できるようになること。

授業の概要

この科目では主に本学で教職課程を履修する学生向けに、学校（公教育）における人権教育の理論と実践のあり方について検討を行っていきます。また、この科目の授業内容の軸となるのが、国際人権条約のひとつである子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）の趣旨です。ちなみにこの条約を日本が批准してから、もうすぐ25年になります。

さて、子どもの権利条約の条文の趣旨でうたわれていることの多くは、たとえば子どもの最善の利益や差別の禁止、子どもの意見の尊重、虐待の防止等々、言われてみれば「あたりまえ」のことばかりです。ですが、あらためてこの日本社会で暮らす子どもの現実を見渡せば、その趣旨が十分に守られているとはいえないことにも気づくかと思います。

このような状況がなぜ、日本社会で起きているのでしょうか？　また、この25年間、いったい日本の人権教育は学校において、子どもの権利条約の趣旨をふまえて、どのような取り組みを行ってきたのでしょうか？

そこで、この科目の授業では主に学校で起きている子どもの諸問題を中心に、子どもの権利条約の趣旨を守る人権教育の取組みについて考えてみたいと思います。

なお、教職課程で学ぶみなさんには将来、学校現場において、教職員になった自分自身が子どもの人権を尊重し、人権教育の担い手として積極的に実践に取り組む必要性に迫られます。上記の授業内容は、そのことも念頭においた内容であることも知っていてください。

授業計画

１．授業計画の説明（ガイダンス）

２．そもそも「基本的人権」とは？　－「人権教育」を考える前提として－

３．子どもの権利条約の趣旨について

４．人権教育の基本的な枠組みについて

５．敗戦後日本における人権教育のあゆみ（１）　1970年代まで ６．敗戦後日本における人権教育のあゆみ（２）　1970年代以降 ７．学校における子どもの意見表明権の保障 ８．障害のある子どもたちの学ぶ権利の保障 ９．外国籍の子どもたちの学ぶ権利の保障 10. 差別・偏見の問題と人権教育（部落差別の問題を中心に） 11. いじめ・体罰をめぐる諸問題と人権教育 12. 学校における子どもの人権救済・擁護（１）　相談と居場所づくり活動を中心に 13. 学校における子どもの人権救済・擁護（２）　子どもの人権オンブズの取り組み 14. 学校における人権教育の今後を考える 期末試験
テキスト 使用しない。
参考書・参考資料等 オードリー・オスラー、ヒュー・スターキー（藤原孝章・北山夕華監訳）『教師と人権教育』明石書店、2018年 平沢安政編著『人権教育と市民力』解放出版社、2011年 上杉孝實・平沢安政・松波めぐみ編著『人権教育総合年表』明石書店、2013年 喜多明人ほか編『[逐条解説]子どもの権利条約』日本評論社、2009年 日本弁護士連合会編著『子どもの権利ガイドブック』明石書店、2006年 中島勝住『差別〈ごころ〉からの〈自由〉を』 阿吽社　2017年 桜井智恵子『子どもの声を社会へ』岩波新書、2012年 『解説教育六法（2018年版）』三省堂
学生に対する評価 学期末レポート40%、授業参加度（コメントペーパーの内容、小レポート課題（予習・復習課題）の提出等を含む）60%

授業科目名： 障がい者理解	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松波めぐみ 担当形態： 単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業の到達目標及びテーマ

皆さんは「障害者」という言葉から、どんな人、どんなイメージを思い浮かべるだろうか。そして、それは何に影響されているのだろうか？　小中学校の時の経験だろうか。それともテレビだろうか。

現在の社会において、障害者は圧倒的に少数派（マイノリティ）である。少数派であるということは単に「数が少ない」という意味にとどまらず、多数派（マジョリティ）のことしか考えずにつくられた社会の中で、さまざまに抑圧されたり、不利益を受けていることを意味する。障害者の場合、「障害があるから、いろんなことができなくても仕方がない」と考えられてきた歴史が長くあった。さまざまな障害者が何を考え、どんなふうに暮らしているのか、その「なまの声」を知らない人が圧倒的に多いのではないか。この授業では、さまざまな障害者の姿、経験、意見などを紹介し、その背景を考えることを通して、私たちをとりまく「社会のあり方」を多角的にみつめていく。障害者自身が立ちあがって社会を変えてきたことや、新しい文化を創りだしてきたことにも触れたい。また、障害者運動からうまれた理論である「障害学」という学問の基礎も学ぶ。「障害学」とは、「障害」は“個人の身体にある欠陥”ではなく、“社会がつくっているバリア”（制度、偏見なども含む）であると主張するものだ。（これを「障害の社会モデル」と呼ぶ。）　社会がバリア（壁）をつくっていることこそが問題なのだ。その社会の担い手の一人として、自分はその壁にどう立ち向かうのか。そんなことを考えてほしい。「目からうろこ」の経験をしたり、障害問題にとりくむのは「おもしろい、やりがいがある」と思えるためのきっかけを提供できればと思う。

この授業の目標は、具体的な問題をとおして、「社会のあり方」を問いなおす視点をもつことだが、それが自分と関係のないところにあるのではないことも実感してもらいたい。半年間の学習を通して、多様な障害者の声に出会い、これからの人生の中で出会っていくことへの準備を（自分なりに）おこなうことができればよいと思う。

＜到達目標＞

(1)多様な障害者がおかれている社会状況や生活に、主体的に関心をもつことができる。

(2)「障害の社会モデル」など、障害学・障害者権利条約の基本概念を理解する。

(3)自分自身の「障害者」観を変革し、同時代を生きる障害をもつ人たちと豊かな関係を結べるよう準備する。
(4)特に関心をもったテーマについて掘り下げて考え、自分なりに表現できるようになる。
(5)障害者だけでなく、マイノリティ性をもって生きる多様な人々への想像力を広げる。また、受講者が自らマイノリティ性をもっている場合、そのことを肯定的に捉えるような機会となればよいと思う。

授業の概要
障害者のおかれている状況は、その人の障害の種類や性別、年齢、環境等によって非常に多様である。この授業では、ビデオ教材や手記などを用いながら、障害者の具体的な姿や声を紹介し、「多数派社会の中で障害者が直面する問題」を考えていく。障害者運動の歴史や現在についても学ぶ。できれば少人数でのディスカッションも行い、自らの考えを深める機会を設けたい。
毎回、授業の後半には小レポートを書いてもらう。小レポートの内容は次の授業で適宜紹介するので、「他の人はどう考えたか」を聞いて、さらに考えを深めてほしい。
授業ではさまざまな事柄を扱うが、何かを覚えることが目的ではない。「障害」や「障害者をとりまく社会」について、より柔軟に思考できるようになればよい。
　一度は、障害をもつ方（および支援者の方）をゲストスピーカーとしてお呼びする予定である。

授業計画
第１回：ガイダンス
第２回：障害者はどこにいるのか？　「地域で暮らす」とは？
第３回：「障害」とは何か？　～個人の医学的問題から社会のバリアへ
第４回：障害者はどんなふうに社会を変えてきたか（１）自立生活運動
第５回：障害者はどんなふうに社会を変えてきたか（２）交通アクセスの運動などから
第６回：障害者はどんなふうに社会を変えてきたか（３）地方から変える…沖縄の実践
第７回：気づきにくい、障害者をとりまくバリア（１）「日本映画が観たい」という運動から
第８回：気づきにくい、障害者をとりまくバリア（２）法律の壁をくずす（欠格条項）
第９回：ゲストスピーカーの話を聴く
第10回：マイノリティとしての障害者と文化（１）　～ろう文化～
第11回：マイノリティとしての障害者と文化（２）発達障害を捉え直す
第12回：障害者と権利（１）女性障害者への複合差別、優生思想を考える
第13回：障害者の権利（2）世界が合意したルール「障害者権利条約」
第14回：障害者の権利（3）障害者差別解消法と私たち、授業の振り返り
期末試験

テキスト 授業中に適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 『生の技法－家と施設を出て暮らす障害者の社会学』安積純子・立岩真也他編　生活書院（文庫） 『障害学への招待－社会、文化、ディスアビリティ』石川准・長瀬修　明石書店 『介助者たちは、どう生きていくのか』渡邉琢　生活書院 『母よ！殺すな』横塚晃一　生活書院 『生きることのはじまり』金満里、ちくま書店 『障害のある子の親である私たち－その解き放ちのために』福井公子、生活書院
学生に対する評価 授業への参加態度（授業後のコメントペーパー含む）50％、宿題10％、筆記試験40％の総合によって評価する。

授業科目名： 学校安全論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 住友剛
			担当形態： 単独

科　目	大学が独自に設定する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業の到達目標及びテーマ

1．学校保健安全法等、基本的な学校安全に関する制度・政策への基礎的知識・理解を得ること。

2．その学校安全に関する制度等への理解を深めて、事故の未然防止や発生時の対応のあり方等を考察できるようになること。

3．過去の重大事故事例などをふまえて、具体的な学校での安全確保策について検討できるようになること。

授業の概要

家庭から「行ってきます」と送り出された子どもを、「ただいま」と無事に送り返すこと。
このことが「学校安全」の取り組みで最も重要なことです。
しかし残念ながら、登下校時や授業中、放課後の部活動や遠足・修学旅行・運動会といった行事などの学校のさまざまな場面で、子どもが事故・事件に遭遇することが後をたちません。また、そのような事故・事件の発生が、日頃の教職員の子ども理解や教育内容・方法のあり方の見直しの不十分さや、子どもへの安全教育や教職員の学校安全の諸課題に関する研修の不徹底、学校の施設・設備等に関する安全点検などの不足などから生まれている面もあります。さらに、阪神淡路大震災や東日本大震災のような自然災害に学校教育が直面し、被災した子どものケアと教育の両立という課題に取り組むこともあります。そして重大事故・事件の発生とその後の対応をきっかけとして、学校・教育行政と保護者が深刻な対立に至ることもあります。
このようなことから、今後教職に就く予定の学生には、学校における子どもの安全確保と豊かな教育実践の両立のあり方について理解を深めておくことが必要不可欠です。そこでこの科目では、以上のような「学校安全」に関する諸課題について基本的な知識を得ること、具体的な事故・事件の未然防止のあり方について理解を深めることを目的とした授業を行います。

授業計画

学内のフィールドワーク（安全点検）、映像資料を見た上でのグループ討論を行う回もあります。
なお、毎回授業の冒頭で、前回授業で提出されたコメントカードの内容をふまえた「ふりかえり」を行います。

１．授業計画の概要説明、「学校安全」とは何か。

２．学校事故・事件の事例に学ぶ（１）　スポーツ部活動や体育の授業での事故 ３．学校事故・事件の事例に学ぶ（２）　登下校中の事故や不審者侵入など ４．学校保健安全法と学校安全計画 ５．文部科学省「学校事故対応に関する指針」について ６．事故の未然防止の取り組み（１）　校内の安全点検と日頃の教育実践の見直し ７．事故の未然防止の取り組み（２）　子どもたちへの安全教育と生活指導 ８．事故の未然防止の取り組み（３）　過去の重大事故事例を手掛かりに ９．事故発生時の教員の初動対応（応急処置等に関する基礎知識を含む） 10. 事故発生時の事後対応について（１）　調査・検証、被害者家族等への対応 11. 事故発生時の事後対応について（２）　在校生へのケアなどを中心に 12. 学校における防災教育の取り組み（１）　阪神淡路大震災をふまえて 13. 学校における防災教育の取り組み（２）　東日本大震災をふまえて 14. 学校における防災教育の取り組み（３）　総合的学習の時間やクラブ活動を通して
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 住友剛『新しい学校事故・事件学』子どもの風出版会、2017年 鈴木庸裕・佐々木千里・住友剛『子どもへの気づきがつなぐスクールソーシャルワーク』かもがわ出版、2016年 喜多明人・浅見洋子編著『みんなの学校安全』ミネルヴァ書房、2016年 安部芳絵『災害と子ども支援』学文社、2016年 制野俊弘『命と向き合う教室』ポプラ社、2016年 佐藤敏郎（案内役）・雁部那由多ほか『16歳の語り部』ポプラ社、2016年 諏訪清二『防災教育の不思議な力』岩波書店、2015年 田端健人『学校を災害が襲うとき　教師たちの3.11』春秋社、2012年 その他、授業時に適宜、文献を紹介する。
学生に対する評価 学期末レポート40%、授業参加度（コメントペーパーの内容、小レポート課題（予習・復習課題）の提出等を含む）60%

授業科目名： 学校ボランティア	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：住友剛 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業の到達目標及びテーマ

1．実際に学校現場（もしくは子どもとかかわる仕事の現場）に入りこみ、教職員の補助的な仕事や部活動支援などを体験するなかで、学校教育の実際の姿を学び、教職課程で学ぶ理論と実践との関係について考察を深めるための基礎知識を得る。

2．学校現場でのさまざまな体験活動を通じて、自らの教員としての適性を把握するための準備作業を行う。

3．「学校ボランティア」という切り口から、現代日本の学校教育の諸課題について理解を深める。

授業の概要

この科目で主に扱っている「学校ボランティア活動」とは、たとえば小・中学校や高等学校、特別支援学校、幼稚園での大学生たちの現場体験活動のことを指しています。また、実際の活動内容としては、たとえば教職員の行う授業や事務作業の補助、放課後や長期休暇中の子どもの体験活動・補習授業の補助、部活動や学校行事の運営への支援などが考えられます。

では、大学生、特に教職課程で学ぶ学生のみなさんにとって、このような現場体験活動に取り組むことには、どのような意義があるのでしょうか。この授業で受講生のみなさんに考えてほしいのは、まさにそのことです。

特にこの科目では、教職課程の受講生たちが学校現場でのさまざまな体験活動を積み重ねながら、学校教育に関する理論と実践の関係について考察を深めたり、学校の現状について知るとともに、自らの教員としての資質を高め、適性を把握すること。そのことにつながるような事前・事後学習を、この科目では行いたいと考えています。また、このような事前・事後学習及び現場体験活動の経験が、今後の教職課程各科目で学ぶことに大きく役立つことを狙っています。

なお、実際に現場体験活動を行う機会の確保を考慮して、学校以外にも、たとえば子どもの体験活動や学習支援に取り組むNPO団体、児童館や放課後児童クラブなども、この科目では「現場体験活動」の場として含めて扱います。

授業計画

＜事前指導＞

１．事前指導及び授業計画全体の説明、「学校現場に入り込むこと」の意義

２．学校ボランティア導入の「背景」にある日本の学校事情

３．学校ボランティア活動の実際（１）　教職員の指導や学校運営の補助的な活動を中心に
４．学校ボランティア活動の実際（２）　さまざまな課題のある子どもへのサポートを中心に
５．実際に活動に参加するための手続きについて
６．実際に活動に取り組む場合の諸注意
７．活動中の各自の記録作成について
８．各自の活動に取り組む課題意識をめぐって（グループ討論）
９．各自の活動計画の作成
10. 各自の活動計画の提出
＜計画に沿った各自の現場体験活動の実施＞
時期としては前期の学期中（６～７月）または夏休み（８～９月）
最低５日以上の現場体験活動への参加を必須とする。
＜事後指導＞
11. 事後指導の計画及び報告書作成、報告会実施に関する説明
12. 各自の活動体験のふりかえり（グループ討論）
13. 報告書の中間報告、報告会準備
14. 学校ボランティア活動の報告会の実施、授業の振り返り
期末試験

テキスト
授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等
秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学編『教育研究のメソドロジー』東京大学出版会、2005年
鯨岡峻『エピソード記述入門』東京大学出版会、2005年
柴山真琴『子どもエスノグラフィー入門』新曜社、2006年
佐藤晴雄『学校支援ボランティア―特色づくりの秘けつと課題』教育出版、2005年
霜田浩信ほか『学校ボランティアハンドブック―支援の必要な子ども、教師、学校とのかかわり方Q&A 』ほんの森出版、2011年
渡辺一史『なぜ人と人は支え合うのか　「障害」から考える』ちくまプリマー新書、2018年
渡辺一史『こんな夜更けにバナナかよ　筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち』文春文庫、2013年　これ以外については授業中に適宜、紹介する。

学生に対する評価
最低５日以上の学外での体験活動を、単位認定の必須条件とする。その上で授業参加度60%（体験活動の計画づくりを含む）、報告レポートの提出（報告会の参加を含む）40%で評価する

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：申 絃旿 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		

授業の到達目標及びテーマ

国家の基本法である「憲法」の基本原理、人権の保障、統治機構について理解する。

（１）「憲法」の基本的な知識を習得する

（２）「憲法」を通して、ニュースや時事問題を読み解く力を身につける

（３）「憲法」に関する意見を表現し、論理的に説明・議論する力を養う

授業の概要

「憲法」は、人々の生活、権利や自由、社会・政治の基本的なあり方＝枠組みであるが、何よりも重要なことは、それが国家の権力行使を制約し、もって人々の権力・自由を確保するという点にある（立憲主義）。人々の日々の生活のあり方を枠づけるこのような「憲法」がどのように生まれ、どのような歴史をたどってきたか、いま、何が論点・争点となっているのかを、憲法の基本原理から考える。

「憲法」はテレビや新聞で見聞きするものだけではなく、我々の「当たり前」の生活にも「憲法」が大きく関係している。そうした「憲法」の働きを広く知り、それに基づいて考える能力をみにつけることが、この授業の目標である。そのために、授業では「憲法」と我々の生活にかかわる内容の新聞記事などの付属資料も、受講生のみなさんに提供する予定である。

授業計画

毎日ニュースをチェックする習慣を身につける必要がある。授業はテキストを中心には行うが、それに加えて新聞記事や参考文献の内容を踏まえた付属資料などを利用ししつつ、時事ニュースを題材に展開するので、社会に対する関心がなければ、授業を理解することが難しいからである。

第1回　ガイダンス（授業計画と授業内容、受講上の注意、成績評価の方法を説明）、憲法とは何か（第1章）

第2回　国民主権の下での象徴天皇（第2章）

第3回　幸福追求権・基本的人権の保障（第3章）

第4回　法の下の平等と性別による差別（第4章）

第5回　思想・良心、信教の自由と政教分離（第5章）

第6回　表現の自由（第6章）

第7回　経済的自由（第7章）

第8回　社会権（第8章）

第9回　人身の自由（第９章） 第10回　平和主義（第10章） 第11回　国会（第11章） 第12回　内閣（第12章） 第13回　裁判所（第13章） 第14回　地方自治（第14章）、憲法改正手続（参考文献内容利用） 学期末テスト
テキスト 京都憲法会議［監修］『入門 憲法学ー憲法原理から考える』法律文化社（2020）
参考書・参考資料等 1. 芦部信義『憲法（第七版）』岩波書店（2019） 2. 西原博史・斎藤一久『教職課程のための憲法入門（第2版）』弘文堂（2019） 3. 長谷部恭男『憲法講話―24の入門講義』有斐閣（2020） 4. 吉田成利『大学生のための日本国憲法』慶応義塾大学出版会（2020） 5.　曽我部真裕ほか編『憲法論点教室（第2版）』日本評論社（2020） その他の参考文献・資料については、毎回の授業時や付属資料に提示する。
学生に対する評価 学期末テスト　70％ 授業参加度　30％

授業科目名： スポーツ実習1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山中　博史 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		

授業の到達目標及びテーマ

体育は、「人間の発育発達に関わり、その機能の改善に寄与しようとするものであり、その素材は身体活動である」と、定義されている。この体育（指導）の歴史的変遷をみると、１８００年代には、「體（からだ）の教育」あるいは「體（からだ）を介しての教育」として位置付けられていたが、近年では、「人間の動きについての科学と技術（Art and Science）」として解釈されるようになってきた。

これに対してスポーツ（Sports）は、その根源を「あそび（Play）」とし、気分転換や息抜き・休養として始められたものが多くある。そのスポーツ（Sports）が、今日では単なる身体的活動にとどまることなく、競争することや共通のルールを設定することにより、正に「真剣にあそぶ行為」として発展し、人間の生活には欠くことのできない文化活動として位置付けられているのである。

授業の概要

特に種目を限定するのではなく、より多くの種目を経験する中で、技術習得のみならず、互いの関係をより豊かなものにするための創意工夫の仕方についても考えていきたいと思う。

また、定期的に講義を取り入れることで、各種スポーツ活動実践の有用性についての認識を深め、各受講生が日常生活の中で実践できる「生涯スポーツ」への契機とすることも、目的の一つとしたいと考えている。

授業計画

１．ガイダンス（更衣不要）
２．実技－身体操作（１）古武術－体の使い方
３．実技－身体操作（２）古武術－型の練習
４．実技－身体操作（３）古武術－生活への応用
５．講義－日本人の体力について－
６．実技－球技種目（１）卓球－ ルールと基本技術の習得
７．実技－球技種目（２）卓球－ 練習
８．実技－球技種目（３）卓球－ 試合
９．講義－運動の発達－
１０．実技－集団種目（１）ドッジボール－ ルールと基本技術の習得

１１．実技－集団種目（２）ドッジボール－ 練習 １２．実技－集団種目（３）ドッジボール－ 試合 １３．実技－集団種目（４）セパタクロー－ ルールと基本技術の習得 １４．講義－救急処置－
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 スポーツ教養入門（高峰修著、岩波書店）
学生に対する評価 授業への取り組み姿勢：60%、パフォーマンス：40%

授業科目名： スポーツ実習２	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：山中　博史 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		

授業の到達目標及びテーマ

体育は、「人間の発育発達に関わり、その機能の改善に寄与しようとするものであり、その素材は身体活動である」と、定義されている。この体育（指導）の歴史的変遷をみると、１８００年代には、「體（からだ）の教育」あるいは「體（からだ）を介しての教育」として位置付けられていたが、近年では、「人間の動きについての科学と技術（Art and Science）」として解釈されるようになってきた。

これに対してスポーツ（Sports）は、その根源を「あそび（Play）」とし、気分転換や息抜き・休養として始められたものが多くある。そのスポーツ（Sports）が、今日では単なる身体的活動にとどまることなく、競争することや共通のルールを設定することにより、正に「真剣にあそぶ行為」として発展し、人間の生活には欠くことのできない文化活動として位置付けられているのである。

授業の概要

特に種目を限定するのではなく、より多くの種目を経験する中で、技術習得のみならず、互いの関係をより豊かなものにするための創意工夫の仕方についても考えていきたいと思う。

また、定期的に講義を取り入れることで、各種スポーツ活動実践の有用性についての認識を深め、各受講生が日常生活の中で実践できる「生涯スポーツ」への契機とすることも、目的の一つとしたいと考えている。

授業計画

１．ガイダンス（更衣不要）
２．実技－身体操作（１）体操－ ラジオ体操
３．実技－身体操作（２）体操－ マット運動
４．実技－身体操作（３）体操－ 鉄棒
５．講義－スポーツを考える（１）－ 体育指導の歴史
６．実技－球技種目（１）テニス－ ルールと基本技術の習得
７．実技－球技種目（２）テニス－ 練習
８．実技－球技種目（３）テニス－ 試合
９．講義－スポーツを考える（２）－ 発育発達への寄与と意義
１０．実技－集団種目（１）サッカー－ ルールと基本技術の習得
１１．実技－集団種目（２）サッカー－ 練習

１２．実技ー集団種目（３）サッカーー 試合 １３．実技ー集団種目（４）ハンドボールー ルールと基本技術の習得 １４．講義ー生涯スポーツについてー
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 スポーツ教養入門（高峰修著、岩波書店）
学生に対する評価 授業への取り組み姿勢：60%、パフォーマンス：40%

授業科目名： 英語１	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：籔内　智 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		

授業の到達目標及びテーマ

豊かなコミュニケーションのための基礎力を身につけましょう！

（到達目標）

１．高校までの英語の文法概念の理解にとどまらず、文の組み立て方の規則を発展させ、状況に応じた適切な文を作り出せるようになる。

２．語彙力を伸ばす（3000語レベル）。

３．流暢な発音を習得する。

４．四技能に関しては、CEFR A2～B1レベルを目標とする。

授業の概要

この授業では、まず、これまでに学んだ英語の文法や語彙の知識を確認し、さらに高いレベルのコミュニケーションを可能にするための文法力・語彙力を身につけます。語彙面では3000語レベルの語彙の定着を図り、文法面では基礎的な文法事項を整理・確認します。具体的には、テキスト各章の文法項目や設問の確認を中心に行います。それと同時に、基本単語集から小テストを授業時に行います。WEB教材などを利用し、全体学習と個別学習がバランスよく進むように考えています。

そして、それを基盤として、「読む」「書く」「聞く」「話す」の４技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力を養います。具体的には、社会の日常的な文脈で使われる英語を理解するとともに、身近な場面や状況におけるコミュニケーションで要求されるストラテジーを学び、自分の考えを英語で的確に発信できる基本的なスキルを身につけます。個別学習だけでなく、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、スピーチなどの活動を取り入れます。これらの活動を通して、異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野も身につけます。

授業計画

第１回：授業説明と自己紹介準備

第２回：自己紹介活動など

第３回：Unit 1 (1) Occupations（to不定詞、接続詞）［語彙・聞く・話す・文法を中心に］

第４回：Unit 1 (2) Occupations（to不定詞・接続詞）［読む・書くを中心に］

第５回：Unit 2 (1) At the Dinner Table（法助動詞）［語彙・聞く・話す・文法を中心に］

第６回：Unit 2 (2) Unit 2 (1)： At the Dinner Table（法助動詞）［読む・書くを中心に］

第７回：Unit 3 (1) Sports（頻度を表す副詞など）［語彙・聞く・話す・文法を中心に］

第８回：Unit 3 (2) Sports（頻度を表す副詞など）［読む・書くを中心に］

第９回：Unit 4 (1) Health（不定詞と動名詞）［語彙・聞く・話す・文法を中心に］

第１０回：Unit 4 (2) Health（不定詞と動名詞）［読む・書くを中心に］
第１１回：Unit 5 (1) What's on Your Playlist?（相関接続詞）［語彙・聞く・話す・文法を中心に］
第１２回：Unit 5 (2) What's on Your Playlist?（相関接続詞）［読む・書くを中心に］
第１３回：Unit 6 (1) At the Movies（知覚動詞、再帰代名詞）［語彙・聞く・話す・文法を中心に］
第１４回：Unit 6 (2) At the Movies（知覚動詞、再帰代名詞）［読む・書くを中心に］
第１５回：Unit 7 (1) Technology in Daily Life（与格構文、接続副詞However）［語彙・聞く・話す・文法を中心に］
第１６回：Unit 7 (1) Technology in Daily Life（与格構文、接続副詞However）［読む・書くを中心に］
第１７回：Unit 8 (1) Social Network（名詞節）［語彙・聞く・話す・文法を中心に］
第１８回：Unit 8 (2) Social Network（名詞節）［読む・書くを中心に］
第１９回：Unit 9 (1) Looking on the Bright Side（連結動詞、分詞形容詞）［語彙・聞く・話す・文法を中心に］
第２０回：Unit 9 (2) Looking on the Bright Side（連結動詞、分詞形容詞）［読む・書くを中心に］
第２１回：Unit 10 (1) Love Affairs（関係代名詞）［語彙・聞く・話す・文法を中心に］
第２２回：Unit 10 (2) Love Affairs（関係代名詞）［読む・書くを中心に］
第２３回：Unit 11 (1) Story Telling（関係代名詞制限用法・非制限用法）［語彙・聞く・話す・文法を中心に］
第２４回：Unit 11 (2) Story Telling（関係代名詞制限用法・非制限用法）［読む・書くを中心に］
第２５回：包括的なコミュニケーション活動（１）―Show and Tell（説明・準備）
第２６回：包括的なコミュニケーション活動（２）―Show and Tell（準備・リハーサル）
第２７回：包括的なコミュニケーション活動（３）―Show and Tell（プレゼンテーション）
第２８回：包括的なコミュニケーションのまとめ＋学習の振り返り

テキスト
　角山輝彦、Live ABC editors（編著）『Live Escalate Book 2: Trekking』成美堂

参考書・参考資料等
・Raymond Murphy（著）English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Students With Answers.（Cambridge University Press）
・Martin Hewings（著）Advanced Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Advanced Learners of English with Answers. (Cambridge University Press)

学生に対する評価
授業参加度30%、授業課題25%、テスト（主に語彙テスト）25%、言語活動や包括的なコミュニケーション活動（プレゼンテーションなど）20%

授業科目名： オフィスソフトスキル入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：青野　久美子 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報機器の操作		

授業の到達目標及びテーマ

情報リテラシー教育を通じて情報活用能力を高めることを目的とする。

項目ごとに課題を示し、問題の原因や解決方法にむけて、いかに情報技術を活用し解決するか「問題発見解決型」形式の授業として実施する。項目ごとの課題については「情報に関連する分野」に特化して提示する。

・スキルチェック

・課題提出　※レポート作成課題→コマンド操作説明（主にWord・PowerPoint）

・情報に関する課題提示

　課題①　情報倫理について（レポート形式にて作成）

　課題②　著作権・肖像権について（スライド形式にて作成）

授業の概要

(1)課題提示と制作、発表、評価（レポート作成）

(2)情報倫理(セキュリティ・モラル)

(3)効果測定（スキルチェック）

授業計画

第１回：ガイダンス・コンピュータ使用に関する注意事項

第２回：Webメールの利用方法とメディア・ファイルの管理

　　課題①　情報倫理について　（取り組み方の説明）

第３回：課題①　作成のためのコマンドツール説明1

（Wordを利用したレポート作成方法、インターネット検索により資料引用方法など）

第４：課題①　作成のためのコマンドツール説明2

（Wordを利用したレポート作成方法、インターネット検索により資料引用方法など）

第５回：課題①　制作実施1（ミニレポート作成・本文の編集）

第６回：課題①　制作実施2（ミニレポート作成・画像などの貼り付け）

第７回：課題①　制作実施3（ミニレポート作成・脚注などの挿入）

第８回：課題①　評価コメント

第９回：課題②　著作権・肖像権について（取り組み方の説明）

第10回：課題②　作成のためのコマンドツール説明

（PowerPointを利用したスライド作成方法） 第11回：課題②　制作実施1（基本操作の習得） 第12回：課題②　制作実施2（スライドの編集） 第13回：課題②　制作実施3（画像、映像の挿入） 第14回：課題②　評価コメント、効果測定（授業のまとめ）
テキスト 作成したテキストをガイダンス時に配布
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 授業参加態度：40%、提出課題：40%、効果測定：20%

授業科目名： 教育原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：　森(朝岡)七恵 担当形態：　単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		

授業の到達目標及びテーマ：

⑴教育や学習に関する基本概念、教育に関する思想などについて理解を深めること。

⑵教育および学校教育の歴史ないし変遷を理解すること。

⑶教育および学校教育の基礎理論をふまえ、現代における教育の課題を理解すること。

授業の概要：

現代の学校教育の荒廃を病理として批判的に検討する資料や素材は限りなくあるが、そこからさらに荒廃を癒す教育の可能性を積極的に構想するのは容易ではない。開かれた教育の可能性は、人間および人間の心を環境や社会との関わりの中で開かれたものとして洞察しうるかどうかにかかっている。そこで必要なのは、教育と教育制度の原点に立ち戻るために、教育とは何か、教育の根本課題とは何かを、教育思想の基礎理論を参照しながら明らかにすることである。以上をふまえ本講義では、古今の著名な教育思想ないし教育思想史を参照しながら、さらに教育制度の変遷をふまえつつ、現代社会における学校教育の課題を具体的に究明する。以上により、教師がふまえるべき教育の基礎理論の習熟を課題とする。

授業計画

第１回　授業計画等のガイダンス、教育の目的・本質をめぐって

第２回　教育目的としての人間論、教育目的の類型

第３回　「教える－学ぶ」の関係と意義、コミュニケーションとしての教育・学習

第４回　家庭・地域における教育

第５回　日本の教育史（１）　古代～近世を中心に

第６回　日本の教育史（２）　近現代を中心に（近代学校の成立と変遷など）

第７回　西洋の教育史（１）　前近代（古代～中世）を中心に

第８回　西洋の教育史（２）　近現代を中心に（近代学校の成立と変遷など）

第９回　近現代の教育思想（１）　ロック・ルソー・ペスタロッチ・フレーベルなど

第１０回　近現代の教育思想（２）　デューイ・シュタイナー・イリッチ・フレイレなど

第１１回　現代社会における教育課題（１）　不登校と新しい学校・居場所づくりを中心に

第１２回　現代社会における教育課題（２）　情報機器の普及と家庭の子育てを中心に

第１３回　現代社会における教育課題（３）　学校と地域・家庭の関係を中心に

第１４回　これからの教育が目指すもの　－近年の教育改革の動向をふまえて－ 以上の枠組みにしたがって、代表的な教育の類型を紹介・検討し、それを通して開かれた学校教育の可能性を構想する。その際グループ別討議や相互インタビューなど、履修者の参加を求める教職的ワークを適宜実施する。
テキスト：　『教育原理』（石上浩美・矢野正編　嵯峨野書院、2018年5月発行）
参考書・参考資料等：　必要に応じて適宜紹介する。
学生に対する評価：　平常授業参加度重視。さらに後半何回か実施する課題指定授業レポートにより総合的に評価する。課題指定授業については、授業中に要項として配布・案内する。 (授業参加態度４０％・課題指定授業レポート６０％・定期試験・最終レポートは実施しない。)

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 住友 剛 担当形態： 単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

教職を構成する多面的な職務の内容について、具体的なイメージを持つことができるようになること。また、教職に関するさまざまな知識を得た上で、自己の教職観を再構成することができるようになること。そして、教職に就くまでに克服すべき自分の課題を整理して、今後の教職課程履修につなげることができるようになること。

授業の概要

この科目は、これから教員を目指す受講生に、「教職（教員の仕事）」に関する具体的かつ多面的なイメージを形成することを目的としている。そのために、まずは授業期間の前半では、公教育の目的と教職の存在意義、教員に関する現在の諸制度や、実際に学校現場で教員が取り組んでいる職務・校務分掌、教職観の変遷、学校現場で教員が直面している諸課題、チーム学校構想などについて、講義を通じて基礎的な理解を深めていただく。続いて後半では、あらためて今日の教員にもとめられる資質・能力を把握した上で、その向上のための教員研修の重要性を確認し、実際の教員たちの取り組みに学ぶ。そして、このような学習を積み上げた上で、教職と他の仕事とのちがいをもう一度確認し、自らの教職観をふりかえるとともに、今後、自分が教員として子どもとどのような関係をつくっていきたいかについて、考察する機会を設けたい。

授業計画

第１回：授業計画の説明、「教職」に対する受講生のイメージを出しあう

第２回：公教育の目的とその担い手としての教員の存在意義

第３回：教員に関する諸制度の概要（養成、免許、採用、研修、待遇、服務、懲戒など）

第４回：教員の職務（授業・生徒指導等）と校務分掌

第５回：教職観の変遷（１）　明治初期～昭和戦前期

第６回：教職観の変遷（２）　昭和戦後期～近年

第７回：教育改革のなかの教員たち（１）　近年の教育改革の動向をめぐって

第８回：教育改革のなかの教員たち（２）　「教員の多忙化」をどう考えるか

第９回：教育改革のなかの教員たち（３）　「チーム学校」構想をめぐって

第１０回：今日の教員にもとめられる資質・能力

第１１回：教育実践研究の視点と方法　―教員にとっての「研修」の重要性― 第１２回：実際の教員たちの仕事に学ぶ（１）　映画「みんなの学校」を通して考える 第１３回：実際の教員たちの仕事に学ぶ（２）　防災学習に取り組む 第１４回：これから教員を目指すために（教職の職業的特徴の再確認） 定期試験は実施しない。
テキスト 使用しない。
参考書・参考資料等 秋田喜代美・佐藤学編著『新しい時代の教職入門』有斐閣アルマ、2006年 大森直樹編『子どもたちとの七万三千日　教師の生き方と学校の風景』東京学芸大学出版会、2010年 岡崎勝『学校再発見！　子どもの生活の場をつくる』岩波書店、2006年 朝日新聞教育チーム『いま、先生は』岩波書店、2011年 松森俊尚『けっこう面白い授業をつくるための本』現代書館、2014年 グループ・ディダクティカ編『教師になること、教師であり続けること　困難の中の希望』勁草書房、2012年 岡村達雄編著『日本近代公教育の支配装置―教員処分体制の形成と展開をめぐって（改訂版）』社会評論社、2003年 大貫隆志編著『「指導死」』高文研、2013年 土田光子『私を創ったもの』明治図書、2001年 住友剛『新しい学校事故・事件学』子どもの風出版会、2017年 その他、授業内で適宜、指示をする。
学生に対する評価 授業参加度60％、学期末レポート40％

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：池内正史 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

教員免許取得予定者として必要と思われる学校制度（教育行財政のしくみを含む）、学校給食、学校事故の防止その他に関する制度的な諸課題、学校と地域との連携のあり方、「チーム学校」への対応等についての知識を得ることを目標とする。また、その知識を手掛かりにして、教員としての職務のあり方について考察を深めたい。

授業の概要

将来教職に就く前提の学生（栄養教諭を含む）を念頭におき、現代日本の学校制度の特徴と課題、学校給食・食育、学校保健、学校安全等に関する諸制度の概要等について授業を行う。また、その授業（特に講義）内容をふまえる形で、学校制度と学校現場での教育実践との関係、学校と地域の連携・協働のあり方、「チーム学校」への対応や、学校給食で起きやすい事故の防止策等について、グループワークや授業内での課題レポート作成などを通じて検討を行う。

授業計画

第１回：「学校制度」とは

（近代公教育の基本原理と憲法・教育基本法等についての概説）

第２回：日本の学校制度を支える基本法令について

（第１回に続き、憲法・教育基本法・学校教育法等の解説。特に学校教育法を中心に行う）

第３回：「子どもの権利条約」（児童の権利に関する条約）と学校教育

（子どもの権利条約の解説を、特に学校教育に関する条文を中心に行う）

第４回：学校生活における「子どもの人権」

（学校で起きる子どもの諸問題を取り上げながら、条約の趣旨理解を深めるグループ討論を行う）

第５回：学校制度の概要のまとめ

（憲法・教育基本法・学校教育法や子どもの権利条約等に関する内容の復習を行い、その上で課題レポート作成）

第６回：学校制度と教育実践、子どもの学校生活

（学習指導要領の法的な性格及び教育課程行政や教科書制度等についての解説）

第７回：教育行財政のしくみ

（文部科学省・地方教育行政及び教育財政に関する法令等の解説）

第８回：「子どもの貧困」問題と学校制度

（就学援助や奨学金など就学奨励に関する法令の検討と、併せて子どもの貧困問題に関する学校と地域

の連携、教職員とスクールソーシャルワーカー等の連携（チーム学校）の取り組み等も紹介） 第９回：学校と地域の連携、開かれた学校づくり （学校と地域の連携・協働の意義とその実施方法、開かれた学校づくり推進の経過などを、地域の人々の学校ボランティアへの参加、学校防災の取り組みなどの事例をふまえて検討） 第１０回：学校制度と教育実践、子どもの学校生活等のまとめ （学習指導要領の法的性格、教育行財政（教育課程行政含む）、就学奨励などに関する主要法令や、学校と地域の連携・開かれた学校づくりの内容を中心に第６～９回の復習を行い、その上で課題レポートの作成） 第１１回：学校制度と教職員 （教職員の免許や研修、採用・服務・待遇等に関する諸制度等の概説） 第１２回：食育・学校給食、学校保健に関する諸制度の概説と「チーム学校」の取り組み （食育・学校給食や学校保健に関する諸法令と、教員・養護教諭・栄養教諭やスクールカウンセラー・ソーシャルワーカー等、子どもの課題に対応する多様な職種の連携のあり方などを解説） 第１３回：学校保健安全法と子どもの事故防止 （学校保健安全法や学校安全計画、学校事故対応に関する指針等の解説。また、多様な職種の連携を通じて、「チーム学校」の観点から子どもの事故防止に取り組むことの重要性を理解させる） 第１４回：学校における事故防止の取り組みを考える、授業の振り返り （学校における給食中の事故や交通安全・生活安全・災害安全のあり方などについて、実際の事故事例とその防止策の具体例などを参照しつつ、グループ討論を行う） 定期試験は実施しない。
テキスト 使用しない
参考書・参考資料等 『解説教育六法』（三省堂） 住友剛『新しい学校事故・事件学』（子どもの風出版会） 姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法』（三省堂） 鴈咲子『給食費未納　子どもの貧困と食生活格差』（光文社新書） 中村文夫『子どもの貧困と公教育』（明石書店） これ以外についても適宜、授業内で紹介する予定。
学生に対する評価 授業内で取り組む３つの課題レポート（60%）と、期末レポート課題（40%）で評価する。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：石上浩美 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		

授業の到達目標及びテーマ

１）教育心理学に関する基礎的な用語を理解することができる

２）教育時事的な問題に対して興味・関心を持つことができる

３）講義内容に関する予習・復習が習慣化できる

４）講義時の質疑応答や話し合い活動（LTD：Learning Through Discusson)に参加できる

５）自己の教員イメージを形成することができる

授業の概要：教師を目指す人のための、学校現場で役立つ教育心理学

教育心理学とは、「教育現場に役立つための心理学的な知見とアプローチ」について考えるための学問である。それは、教員として教壇に立った時に役立つ実践的な理論であるとともに、いつかどこかで子どもと関わり育む状況になった時にも活用可能なものであってほしいと考える。教育心理学が取り扱う主な内容は、発達・学習・人格・適応・評価であるが、この講義では、協同学習の理念と手法に基づいた問題解決型の学習展開を目指している。たとえば、「いじめのない学級」を作るためには、どのような指導ができそうなのか、話し合い活動（LTD：Learning Through Discusson)を通して、具体的な解決方法を探求する。このような手法にも興味・関心を持ち、積極的に授業に参加することを期待している。

・文部科学省の指導により単位認定のためには全講義日数の1/3以上の出席が最低条件である。

・遅刻・早退は1/2出席扱いとする。

・講義中のグループワークや発表について、積極的に参加することが望ましい。

授業計画

第１回：第１回　イントロダクション　履修上の諸注意、評価方法・基準の説明

第２回：教育心理学の成り立ちと課題、研究方法（実証科学としての心理学、学校教育における課題)

第３回：発達とは（身体・言語・道徳性・社会性；ピアジェ、エリクソン、ヴィゴツキーなど)

第４回：障がいを持つ生徒の理解と指導（盲・聾、知的障害、肢体不自由、LD、ADHD、高機能自閉症など広汎性発達障害などへの理解と合理的配慮)

第５回：学習の意味と動機づけ（オペラント条件づけ、アンダーマイニング効果、観察学習)

第６回：学習指導の方法（学習形態、個に応じた指導方法、ATI)

第７回：学級集団で学ぶ（協同学習、LTD学習法)

第８回：人格形成とは（人格の三層、パーソナリティの発達、対人関係形成の発達)

第９回：適応と不適応（学校内臨床課題、心身の健康への理解と指導)

第１０回：生活指導・生徒指導・教育相談（生徒指導提要、キャリア発達・教育的支援） 学校で活用できる心理アセスメント、測定法（知能検査、エゴグラム、YG性格検査、PFスタディ、描画法など） 第１１回：教育評価、授業評価（目標準拠評価・集団準拠評価、評価の時期と主体、評価と学習効果） 第１２回：これからの時代に求められる教員の養成・採用・研修とは 第１３回：子どもを取りまく現状と課題①いじめ・不登校・体罰・学校安全など 第１４回：子どもを取りまく現状と課題②（ICT、SNSなどに対する情報リテラシーと倫理） 定期試験
テキスト 石上浩美・矢野正編著（2016）、教育心理学―保育・学校現場をよりよくするために―、嵯峨野書院
参考書・参考資料等 ・北尾倫理（他）（2006）精選コンパクト心理学－教師になる人のためにー、北大路書房. ・安藤寿・康鹿毛雅治（編）（2013）教育心理学、慶應大学出版会. ・石上浩美・矢野正（編著）（2017）保育と言葉第2版、嵯峨野書院. ・小川圭子・矢野正（編著）（2017）保育実践に生かす障がい児の理解と支援改訂版、嵯峨野書院 ※その他多数あるため、講義中に随時紹介する。
学生に対する評価 ・到達目標準拠評価（絶対評価） ・授業参加姿勢（予習課題）・発言／LTD（話し合い学習）活動への参加状況　30% ・コメントシート・中間課題記述内容　20% ・期末到達度確認テスト：50%

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：石上浩美 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		

授業の到達目標及びテーマ

１）特別支援教育に関する基礎的な用語を理解することができる

２）障がい特性、および母国語や貧困の問題等人権課題により、特別の教育的ニーズのある子どもや教育時事的な問題に対して興味・関心を持つことができる

３）講義内容に関する予習・復習が習慣化できる

４）講義時の質疑応答や話し合い活動（LTD：Learning Through Discussion)に参加できる

５）障がい児・者に対する合理的配慮の必要性について理解し実践に活用することができる

６）アセスメントなどによる障がいの確定診断はないものの、特別の教育的ニーズがあり、合理的配慮を必要とする障がい児・者，母国語や貧困の問題等人権課題を持つすべての児童及び生徒に対する指導方法について理解し実践に活用することができる。

授業の概要：教師を目指す人のための、学校現場で役立つ特別支援教育

特別支援教育とは、「障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う（文部科学省）」ものである。特別支援教育の対象となる子どもは、特別支援学校・学級在籍者だけではなく、通級指導や通常の学級をも含めると、就学児童・生徒の8%～10%程度存在しており、障がいの確定診断の有無にかかわらず、インクルーシブな観点から、学級経営・指導と、合理的配慮に基づいた支援が求められている。そこで、この講義では、協同学習の理念と手法に基づいた問題解決型の学習展開を目指し、話し合い活動（LTD：Learning Through Discussion)を通して、具体的な解決方法を探求する。このような手法にも興味・関心を持ち、積極的に授業に参加することを期待している。

・遅刻・早退は1/2出席扱いとする。

・講義中のグループワークや発表について、積極的に参加することが望ましい。

授業計画

第１回：第１回　イントロダクション　特殊教育から特別支援教育への歴史的転換

第２回：特別支援教育の理念と合理的配慮（インクルーシブ教育の観点から）

第３回：特別支援教育の現状と課題（特別の教育的ニーズがあり、合理的配慮を必要とする障がい児・者，母国語や貧困の問題等人権課題を持つ児童・生徒への指導を含む）

第４回：障がい特性についての理解①（視覚・聴覚・肢体不自由・病弱など）

第５回：障がい特性についての理解②（知的障害・自閉症スペクトラム・発達障害など）
第６回：特別支援学校小学部・中学部における指導の実際（個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成、実践事例観察によるLTD）
第７回：通級による指導、および通常の学級における特別の教育的ニーズ（合理的配慮を必要とする障がい児・者，母国語や貧困の問題等人権課題を含む）のある児童・生徒を対象とした指導の実際（実践事例観察によるLTD）
第８回：特別支援（教育特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を含む）と就労支援、人権保障、特別支援教育第1回から第8回のまとめ
定期試験は実施しない

テキスト
・特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（最新版　文部科学省）
・小川圭子・矢野正（編著）（2017）保育実践に生かす障がい児の理解と支援（改訂版）、嵯峨野書院.

参考書・参考資料等
・石上浩美（編著）（2015）保育と表現、嵯峨野書院.
・石上浩美・矢野正編著（2016）、教育心理学―保育・学校現場をよりよくするために―、嵯峨野書院.
・石上浩美・矢野正（編著）（2017）保育と言葉第2版、嵯峨野書院.
※その他多数あるため、講義中に随時紹介する。

学生に対する評価
・到達目標準拠評価（絶対評価）
・授業参加姿勢（予習課題）・発言／LTD（話し合い学習）活動への参加状況　30％
・コメントシート・中間課題記述内容　20％
・レポート試験：50％
・合計100点満点
100～90点：S　89～80点：A　79～70点：B　69～60点：C　59点以下：D

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：上野目浩一 担当形態：　単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		

授業の到達目標及びテーマ：

(1) 教育課程の意義や役割・歴史を理解することができる（カリキュラム・マネジメントを含む）。

(2) 学習指導要領の目的や内容を理解することができる。

(3) 教育課程の編成や学習方法・学習形態について理解することができる。

(4) 教育課程編成上の課題を理解することができる。

授業の概要：

この科目では、中学校・高等学校の学習指導要領（特に「総則」部分）の内容やこれまでの学習指導要領の変遷等をふまえて、学校において教育課程（カリキュラム）編成を行うにあたってふまえるべき基本原理や方法などを学びます。そのことを通じて、教育課程の意義や、教育課程が社会において果している役割・機能について理解を深めます。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握したり、各学校や地域、生徒の実情などをふまえたカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性、そしてカリキュラムの評価の基礎的な考え方についても、この科目の中で扱います。

授業計画

第１回：イントロダクション。教育課程の役割・機能・意義を考える

第２回：敗戦後日本における学習指導要領の変遷（中学校・高等学校を中心に）

第３回：敗戦後日本の学校の指導要録の変遷と各時期の教育課程との関係

第４回：中学校（平成29年）学習指導要領の内容と改訂に至るその社会的背景

第５回：高等学校（平成30年）学習指導要領の内容と改訂に至るその社会的背景

第６回：教育課程編成の基本原理について

第７回：カリキュラム・マネジメントの意義・重要性をめぐって

第８回：生徒や地域・学校の実態をふまえたカリキュラム編成の在り方をめぐって

第９回：教科・領域を横断したカリキュラム編成の在り方をめぐって

第１０回：「社会に開かれた教育課程」とはなにかを考える

第１１回：カリキュラム評価の基礎的な考え方と方法について

第１２回：諸外国の教育課程　フィンランド教育の特色（共同学習）を中心に

第１３回：特色ある学校の教育課程の事例研究（個人研究）

第１４回：特色ある学校の教育課程の検討（グループ研究、資料作成）、授業の振り返り

テキスト： 　使用しない。
参考書・参考資料等： 中学校学習指導要領（平成29年7月告示　文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年7月告示　文部科学省） 田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房 柴田義松著『教育課程～カリキュラム入門～』有斐閣コンパクト
学生に対する評価：　授業時に行う小レポートや制作物等の提出物（50%），総括レポート（30%），授業への積極的な参加度（20%）

授業科目名： 道徳教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：　森(朝岡)七恵 担当形態：　単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		

授業の到達目標及びテーマ：

１．道徳教育の基礎理論に習熟する。

２．道徳の授業構成について理解を深める。

３．道徳の授業の指導案作成ができるようになる。

授業の概要：

道徳が教科となり、教科書が指定され、内容と課題の標準化が志向されているが、他方では従来の一斉型授業とは異なる「考え議論する道徳」も課題となりつつある。そこで必要なのは、教科書を資料として用いながら、それを素材として検討し、議論し、問い返すための柔軟な視点である。

道徳教育には、現代における困難な教育問題が集約されているからである。家庭問題や子ども問題や学校問題、さらに環境や生命倫理や情報化や国際化や人権などをめぐる社会問題は、あるいはまた深刻な災害に呼応して求められるエネルギー問題の見直しに必要な人間のライフスタイルの問い返しなどは、変化しつつある時代に必要な社会と人間のあり方を課題とする道徳教育論のテーマでもある。

そこで道徳の授業に必要なのは、以上の課題を自覚的に問い返す柔軟な心性と事柄の核心を見抜く洞察力とそれを現実化する実践力の育成であり、それを具体化するための創意工夫を生かした特色ある授業の企画である。

以上をふまえ本講義では、道徳教育に関する様々な理論と実践を取り上げ具体的に検討する。その際とくに道徳教育の授業方法論に照準を合わせ、可能なかぎり道徳授業の新しい企画の可能性を探る。それにより、具体的な授業構成の原理の習得を課題とする。以上を通して問われる中心問題は、変化しつつある現代社会における善とは何か、正義はいかにして可能かを、具体的な道徳的指導場面において実践的に究明することである。

授業計画

第１回　道徳教育論の課題

第２回　善さの諸相：正義はいかにして可能か

第３回　学校と道徳教育：道徳の教科化

第４回　道徳の授業方法論

第５回　学習指導要領への理解を深める：「特別の教科道徳」

第６回　指導と支援

第７回　モラルジレンマを用いた授業（情報モラルの学習を例として）

第８回　参加型の道徳授業（いじめ問題への対応を例として） 第９回　ディベートを用いた道徳授業 第１０回 道徳教育的問題解決学習 第１１回 ケアリングの道徳教育 第１２回 読み物資料を用いた授業構成 第１３回 指導案作成：資料分析の視点、授業の企画、学習評価の方法 第１４回 指導案作成まとめ、模擬授業要点説明および模擬授業 　講義中心ではあるが、具体的資料を用いながら、意見や感想文などにより、話し合いながらテーマについて考察していく。さらにグループ別討議やディベートなど、履修者の参加を要する形式を取り入れていく。
テキスト： 　使用しない。
参考書・参考資料等： 　中学校学習指導要領（平成29年7月告示　文部科学省） 　中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）（平成29年7月告示　文部科学省） 　その他は必要に応じて適宜紹介する。
学生に対する評価： 平常点および授業参加度４０％・課題指定授業６０％　定期試験・最終レポートは実施しない。 平常授業への参加度を重視する。さらに後半何回か実施する課題指定授業レポートにより総合的に評価する。課題指定授業については、授業中に要項として配布・案内する。

授業科目名： 総合的な学習の時間の指導論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名：住友　剛 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な学習（探究）の時間の指導法		

授業の到達目標及びテーマ

１：総合的な学習（探究）の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。

２：総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。

授業の概要：

この科目は、中学校における「総合的な学習の時間」や高等学校における「総合的な探究の時間」の学習内容や指導方法のあり方に関する理解を深めることを目的としています。具体的には　たとえば新しい中学校・高等学校の学習指導要領の内容を前提にして、まずは各教科・領域の枠組みを横断・総合するようなテーマを設定して、「総合的な学習（探究）の時間」を使って生徒たちが学ぶことの意義について理解を深めます。また、人権学習や防災学習、キャリア教育などのテーマに基づく実践例を紹介しつつ、「総合的な学習（探究）の時間」の年間指導計画や単元計画の作成方法、生徒たちの学習の評価方法と留意点などについて理解を深めます。このような授業内容をふまえて、生徒たちの「社会の中で生きて働く力」の形成をめざし「自ら課題を発見し、解決していく」学習のあり方とその意義について考察をしていきます。

授業計画

第１回：授業計画の説明、「総合的な学習（探究）の時間」で学ぶことの意義

第２回：中学校学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標・内容と実践例

第３回：高等学校学習指導要領における「総合的な探究の時間」の目標・内容と実践例

第４回：「探究的な学習（学び）」の過程とその指導方法をめぐって

第５回：「総合的な学習（探究）の時間」の年間指導計画の作成と実践例（人権学習などを例として）

第６回：「総合的な学習（探究）の時間」の単元計画の作成と実践例１（防災学習などを例として）

第７回：「総合的な学習（探究）の時間」の単元計画の作成と実践例２（キャリア教育などを例として）

第８回：「総合的な学習（探究）の時間」における生徒の学習の評価方法と留意点をめぐって

テキスト

使用しない。

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領』（2017（平成29）年） 『高等学校学習指導要領』（2018（平成30）年） 『中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）』（2017（平成29）年） 『高等学校学習指導要領解説（総合的な探究の時間編）』（2018（平成30）年） 田村学・廣瀬志保編著『「探究」を探究する　本気で取り組む高校の探究活動』学事出版、2017年 竹内常一・高生研編『総合学習と学校づくり』青木書店、2001年 諏訪清二『防災教育の不思議な力』岩波書店、2015年 大阪府立西成高等学校編『反貧困学習　格差の連鎖を断つために』解放出版社、2009年 筒井美紀『殻を突き破るキャリアデザイン』有斐閣、2016年 文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（高等学校編）』教育出版、2013年 その他、授業中に適宜、指示する。
学生に対する評価 　授業でのコメントペーパーの内容50％、課題レポート50％にて評価する。

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：　戸來　知子 担当形態：　単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		

授業の到達目標及びテーマ：

（1）特別活動の意義、目標について理解する。

（2）学習指導要領の内容を理解し、特別活動を構成している教育活動の指導方法を学ぶ。

（3）特別活動の指導案を作成し、プレゼンテーションを行う。

（4）人間の成長・発達の理論や教育学の基礎理論を理解する。

授業の概要：

学習指導要領において、特別活動の目標は、「望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方や生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。学校生活（ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事）において学習指導要領の内容について具体的な事例を挙げながら、指導案作成や教材研究、プレゼンテーションをすることで、教師になった時の実践力を身につける。同時に、教育活動の基盤にある人間の成長発達の理論や教育学の理論も学ぶ。

授業計画

第１回　オリエンテーション。授業計画の説明。特別活動の意義と役割について学ぶ。

第２回　学習指導要領から「特別活動」の意義や内容について学ぶ。「隠れたカリキュラム」について学ぶ。

第３回　学級活動・ホームルーム活動について学ぶ。役割の取得と人間関係構築について考える。

第４回　学級活動・ホームルーム活動においての教師の指導力を考える。ホームルームの指導案の作成。（公共の精神や生き方・在り方を考える。）

第５回　学級活動・ホームルーム活動の模擬授業。

第６回　学校行事の意義や内容について学ぶ。

第７回　学校行事の具体的実践研究とプレゼンテーション。

第８回　生徒会活動とクラブ活動の意義を学ぶ。具体的実践例とプレゼンテーション。

第９回　総合的な学習の時間について学ぶ。（目的・経緯・課題など）

第１０回　総合的な学習の時間の指導案作成と教材研究。（食育・国際理解・ボランティア等）

第１１回　特別活動における取り組みの評価と改善方法 第１２回　J. デューイの教育についての理論を学習する。 第１３回　人間の成長・発達の理論と学校と地域・家庭との関わりについて学ぶ。 第１４回　授業の振り返りと試験
テキスト： 使用しません。授業ではプリントを配布します。
参考書・参考資料等： 中学校学習指導要領（平成29年7月告示　文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年7月告示　文部科学省） 中学校学習指導要領解説（特別活動編）（平成29年7月告示　文部科学省） 高等学校学習指導要領解説（特別活動編）（平成30年7月告示　文部科学省） その他、授業中に適宜紹介します。
学生に対する評価： 毎回の授業後に意見や疑問などを感想用紙に記入・提出してもらい、それを評価の45%とします。また、第7回で行う知識習熟度確認の小テストを10%、試験を45%とします。

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：山本桂子 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、教育方法の意義や目的について理解するとともに、実践的指導力につながる教育方法の方法や技能を身につけることをテーマとする。具体的には、(1)教育方法の目的や学習指導の原理を理解し、教育方法の基礎理論の理解すること、(2)情報機器及び教材の活用を含む教育方法の技術についての理解し、活用できること、(3)様々な教育方法について関心を持って、自らが学習指導の方法を具体的にイメージし、意見や考えを効果的に表現することができるようになることを目的とする。

授業の概要

教育方法論は、教育活動を行う際の重要な技術を含むものである。「授業をどのようにデザインするか」という主題を持って、前半では、教育方法の史的経過を踏まえた基礎的な理論及び方法について概説し、後半では、「学びのスタイル」の変化と情報機器及び教材の活用について理解し、これらを生かした具体的な授業づくりについて検討する。

授業計画

第１回：オリエンテーション／教育・学習に関する最近の問題について

第２回：教育の原理

第３回：教育方法の発達（１）教授理論の流れ

第４回：教育方法の発達（２）学習指導の原理

第５回：教育方法の発達（３）教育方法の諸理論

第６回：問題解決の方略

第７回：問題解決と推理

第８回：　「学び」のスタイル（１）学習活動の形態

第９回：　「学び」のスタイル（２）情報機器の活用と情報活用能力・情報モラルの育成

第１０回：「学び」のスタイル（３）授業づくり

第１１回：授業をデザインする（１）授業実践の具体例

第１２回：授業をデザインする（２）教材、マルチメディア、コミュニケーション

第１３回：授業をデザインする（３）授業計画、学習指導案作成、評価

第１４回：授業指導案の発表

定期試験

テキスト 使用しない
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（平成29年7月告示　文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年7月告示　文部科学省） 佐藤学『教育方法学』（岩波書店　1996） 田中耕治他『新しい時代の教育方法』（有斐閣アルマ　2012） 田中博之『アクティブラーニング実践の手引き』（教育開発研究所　2016） 松浦公紀『モンテッソーリ教育が見守る子どもの学び』（学研　2004）
学生に対する評価 授業への参加度及び発表（50%）、学期末レポート（50%）

授業科目名： 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鹿野　利春 担当形態：単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

授業のテーマ及び到達目標

ICTの活用を前提とした授業設計及び実施・評価に必要な理論と実践を概観し、教師として必要な知識とスキルを身に付ける。到達目標は以下のとおり。

1　学校教育におけるICT活用の意義とあり方の理解
2　ICT活用を支えるICT環境整備、教育情報セキュリティ、外部連携の重要性の理解
3　ICTを効果的に活かした校務の推進についての理解
4　情報活用能力の育成、指導におけるICTの活用についての理論と方法を身に付ける
5　教育データを活用した学習指導や学習評価について理解する
6　遠隔・オンライン教育の理論と方法、必要な機器操作を身に付ける

授業の概要

教育現場におけるICTの活用について理論と事例をもとに紹介するとともに、情報活用能力の構成要素、指導方法、情報モラルを含めた教育課程上の位置付けについて解説する。現場での授業における教員と生徒のICT活用、教育データの活用、校務の推進、遠隔・オンライン教育について具体的な事例をあげて取り上げる。学生自身が各種ICT機器や環境を活用し、体験的に学習する機会を設けるとともに、ディスカッションの機会も取り入れる。

授業計画

第１回：教育の情報化

社会的背景の変化や急速な技術の発展も踏まえ、情報技術を活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業展開の必要性について理解する。

第２回：情報活用能力の育成

情報活用能力について理解し、基礎的な指導法を身に付ける

第３回：ICTを活用した教材開発と指導法

情報通信技術を効果的に活用した指導事例を理解し、基礎的な指導法を身に付ける

第４回：教育データを活用した評価

学習履歴（スタディログ）の重要性、これらを活用した指導と評価について理解する

情報通信技術を活用した公務の推進について理解する 第５回：情報モラル教育 情報モラルを含む情報活用能力の育成について、カリキュラム・マネジメントの有効性について理解する。 第６回：ICTを活用した特別支援教育 特別な支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用の意義について理解するとともに、実際の活用についての知識と方法を身につける 第７回：校務の情報化とICT環境の整備 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進について理解する 統合型校務支援支援システムの意義と効果について理解している 第８回：遠隔・オンライン教育 遠隔・オンライン養育の意義や関連するシステムの使用法を理解する
テキスト 「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」（実教出版）
参考書・参考資料等 講義の際に提示
学生に対する評価 レポート（30%）、授業への参画度（70%）によって評価する

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：住友　剛 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		

授業の到達目標及びテーマ

１．生徒指導・進路指導及びキャリア教育の意義や原理を理解すること。

２．すべての生徒を対象とした学級・学年・学校全体における生徒指導のすすめ方、進路指導・キャリア教育の考え方と指導のあり方を理解すること。

３．生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

４．生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。

授業の概要：

子どもたちが落ち着いて学校で生活し、積極的に学習活動に取り組み、卒業後の進路に明るい展望を見出していけるようになるためには、教員が「ひとりひとりの子ども」の思いに耳を傾け、課題を理解し、ていねいなかかわりを続けていくことが大切になります。また、子どもたちが仲間とともに学校で過ごし、居場所をつくり、そこでのもめごとの解決を通じて社会性を身に付けていくことは、やはり卒業後の職業生活で生きていく力の形成という意味で無視できません。そして、一見、教員の側からは「困った」というしかないような子どもたちのもめごとのなかにも、ひとりひとりの子どもの願いがさまざまなかたちで現れています。

そこで、今年度のこの科目では、生徒指導及び進路指導・キャリア教育の理論と実践について「教員の子ども理解の重要性」という切り口から検討をしていきます。また、その「子ども理解」の重要性は、学校教育における「子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）」の趣旨の実現という課題とも結びついていることについても、授業のなかで折に触れて説明していきます。内容的には、まずは生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義や、カリキュラム（教育課程）運営と生徒指導や進路指導・キャリア教育との関係について、基本的な知識をおさえていきます。その上で、生徒指導の領域についてはすべて生徒を対象に学校全体として取り組むこと（基本的生活習慣の確立、居場所づくりを通じての自己肯定感の育成等）や、個々の課題のある生徒への対応（いじめ・不登校、暴力行為等）への対応、校則や懲戒（体罰防止を含む）に関する法令等について学びます。また、進路指導・キャリア教育の領域では、職場体験活動や各種ガイダンスの実施などの具体的な方法について検討をします。

授業計画

第１回：ガイダンス（授業計画、評価方法の説明等）
第２回：生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義と原理（１）　集団指導と個別指導、教育相談と生徒指導、進路指導及びキャリア教育の関係、子ども理解の重要性など
第３回：生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義と原理（２）　教育課程運営（カリキュラム・マネジメント）や各教科・領域等の学習と生徒指導の関係など
第４回：生徒指導・進路指導及びキャリア教育の意義と原理（３）　「子どもの権利条約」の理念、応答的かかわりと子ども理解
第５回：生徒全体への指導にかかわって（１）　生徒たちの自己肯定感を育むために
第６回：生徒全体への指導にかかわって（２）　基本的な生活習慣や規範意識の形成に向けて
第７回：生徒全体への指導にかかわって（３）　生徒指導及び進路指導・キャリア教育における学校の指導方針や年間指導計画、校務分掌等組織的な指導体制とのかかわり
第８回：個別の課題を抱える生徒への指導（１）　校則や懲戒、体罰防止等に関する取り組み（法令の理解を含む）
第９回：個別の課題を抱える生徒への指導（２）　暴力行為・いじめ・不登校などを中心に
第10回：個別の課題を抱える生徒への指導（３）　関係機関との連携が必要な諸課題を中心に（虐待、インターネットネット上の諸問題等）
第11回：進路指導・キャリア教育の意義　キャリア教育とカリキュラム・マネジメント
第12回：進路指導・キャリア教育の方法（１）　進路指導とガイダンス、職場体験活動など
第13回：進路指導・キャリア教育の方法（２）　キャリアカウンセリングの方法などを中心に
第14回：生徒指導・進路指導及びキャリア教育に共通する課題　「困りごとを相談する力」の形成を中心に、授業の振り返り

テキスト　使用しない

参考書・参考資料等
文部科学省『生徒指導提要』（2010（平成22）年３月）
文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』教育出版、2011年
文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』教育出版、2012年
山本敏郎ほか『新しい時代の生活指導』有斐閣、2014年
小泉令三編著『よくわかる生徒指導・キャリア教育』ミネルヴァ書房、2010年
児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店、2007年
その他、授業中に適宜、紹介する。

学生に対する評価
毎回のコメントカードの内容や小レポート60%、期末レポート40%で評価する。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：川本静香 担当形態：　単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		

授業の到達目標及びテーマ：

（1）教育相談の目標と理論について理解する

（2）子どもの心の発達についての基礎的知識を獲得する

（3）児童・生徒の育ちを支える関わり方や態度を理解し実践する

（4）学校現場での諸問題について知り、理解する

授業の概要：

児童・生徒を取り巻く社会的環境は劇的に変化してきており、信頼できる生身の人間関係を築くことは年々困難さを増しています。それは教育現場においても例外ではありません。一方で、人間の心の育ちには信頼できる生身の人間関係が不可欠であり、そのような関係を築くためには、ひとり一人の心に添う共感的理解の態度を養うことや、それを支える知識を持つことがとても重要です。授業では主に基礎的な心理発達の知識や学校現場での実際問題などを講義形式で学びますが、それらにどう関わるか、どのように考えるかといったことについて、自身の体験を振り返ったり、時にグループワークや話し合いを行ったりしながら、各回のテーマに主体的に関わってもらいます。

授業計画

第１回：　オリエンテーション　授業計画について　教育相談の意義と概要

第２回：　教育相談的視点とカウンセリングマインドについて

第３回：　カウンセリングの技法と実際①　傾聴について

第４回：　カウンセリングの技法と実際②　質問の仕方について

第５回：　心理発達についての臨床心理学の基礎的理論①　乳児期～少年期

第６回：　心理発達についての臨床心理学の基礎的理論②　少年期～青年期

第７回：　子ども理解（見立てとアセスメント）の重要性と方法

第８回：　心の不調に関する基礎理解とストレスマネジメント

第９回：　不登校児童・生徒への支援について

第１０回：　いじめや問題行動を呈する児童・生徒への支援について

第１１回：　発達障害のある児童・生徒への支援について

第１２回：　保護者への支援と、教員同士や他機関との協力・連携について 第１３回：　災害時・緊急時における児童・生徒への支援とメンタルヘルス 第１４回：　人間関係機能と心のつかい方　共感的理解について、試験について
テキスト：　特に使用しません。授業ではプリントを配布します。
参考書・参考資料等： 吉田卓司「教育実践基礎論」三学出版（2017年） 授業内で適宜紹介します。
学生に対する評価：　毎回の授業後に意見や疑問などを感想用紙に記入・提出してもらい、それを評価の45％とします。また、第7回で行う知識習熟度確認の小テストを10％、試験を45％とします

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中・高）	単位数：２単位	担当教員名：籔内智
科　目	教育実践に関する科目	

履修時期	４年次後期	履修履歴の把握(※１)	○	学校現場の意見聴取（※２）	○

受講者数　8人

教員の連携・協力体制

本演習担当教員は、資格課部門会議に設置しているワーキンググループの下、教科に関する科目および教職に関する科目の担当教員と一緒に、履修カルテや教育実習で浮き彫りになった学生個別の課題や指導上の諸問題について、改善に向けた協議をおこなう。

授業のテーマ及び到達目標

・教育実習の総括と反省を行う。
・教職課程科目履修の総括と反省を通しての各自の課題を確認する。
・教員としてのコミュニケーション能力の向上により各自の課題解決をはかる。
・教員としての総合的コミュニケーション能力を免許取得予定の各教科に関連づけて習熟させる

授業の概要

教職実践演習設置の趣旨は次の通りです。

＜科目創設の趣旨より：求められる事項＞

①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
②社会性や対人関係能力に関する事項
③生徒理解や学級経営等に関する事項
④教科･教育内容等の指導力に関する事項

そこで教職実践演習の目標は、上記のように分節化される教員の基本的資質能力を実践的に確認し、補充し、さらに深化･統合することにより、すでに教育実習を終えている履修者が、自らの教職履修を集大成することとなります。

そのために必要なこと、求められることは何か。それは現実化しつつあるポストモダン状況の中で困難になりつつある教育的関係を踏まえつつ、不断に変化しつつある生徒と向き合い、教育的関係を社会的関係として新たに構築しうるような柔軟かつ確固とした実践的指導力です。その際、統合されたものとしての総合的指導力は、新たな公共性を担う教師の社会性としての総合的コミュニケーション力でもあります。以上踏まえ、総合的指導力の統合を目標とする本演習では、ICTを積極的に活用した演習形式により可能な様々な素材と方法を駆使してその確認と補充をテーマとします。

授業計画

第１回　教職実践演習オリエンテーション：目標の共有･実習体験を踏まえ
第２回　教職を目指す自分の対人関係能力等に関する課題の把握
第３回　生徒理解や学級経営等に対する自分の課題の把握
第４回　各教科の指導方法や学習内容への理解等に関する自分の課題の把握とICTの活用方法
第５回　教員としての使命感等に関する自分の課題の把握
第６回　テーマ設定による模擬的ディベート：教師と生徒

第７回　テーマ設定による模擬的ディベート：子どもの成長 第８回　エンカウンター：ロールプレイングにより表現実践 第９回　エンカウンター：ロールプレイングによる課題解決 第10回　外部講師による実践事例紹介：学習指導要領と授業企画 第11回　外部講師による実践事例紹介：特別活動（学級活動） 第12回　教科教育の実践：表現のテーマ発見（現地調査） 第13回　教科教育の実践：テーマから具体的企画へ 第14回　教科教育の実践：具体的企画の練り上げ、授業企画へ
テキスト 　使用しない。
参考書・参考資料等 高等学校学習指導要領(平成30年7月告示), （総則編と各教科の学習指導要領）最新版 その他、適宜、授業時に指示する。
学生に対する評価 　授業参加態度50％・表現課題50％にて評価する。

※１　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※２　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。